

2年 保 育 科

保育科教育課程表(2021年度(令和3年)入学生)																		
区 分		科 目	単 位		開 講 時 期				担当教員名	卒 必	幼二種	保育士	こども音楽療育士	准学校心理士	備 考			
					1年生		2年生											
		授業の方法	必修	選択	前	通	後	前	通	後								
教 養 科 目	人間と文化	日本文化	講義	2			○				金子未佳						〔教養科目〕 卒業要件:14単位以上 〔必修含む〕 「人間と文化」2単位以上 「人間と社会」2単位以上 「生活と科学」2単位以上 ウィンドアンサンブル入門 (年間15回)	
		芸術	講義	2			○				長谷川裕久							
		子どもと読書	講義	2	○						高橋香緒理							
		ウィンドアンサンブル入門	演習	1			○				八木澤香菜							
	人間と社会	日本国憲法	講義	2	○						小口恵巳子		○					
		現代社会論	講義	2				○			瑠雅文							
		生涯学習概論	講義	2					○		金子未佳							
		女性学	講義	2				○			小林和子/小口恵巳子							
		女性と社会生活	講義	2	○						辻京子		○		○			
		キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○				助川/安藤/橋本/富田/国府田/馬立/佐藤/梶井/小口/八木澤	○		○				
		キャリア形成ゼミⅡ	演習	1						○	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口	○		○				
		ボランティア活動論	講義	2					○		瑠雅文							
	生活と科学	生活と環境	講義	2				○			佐藤隆							
		生活と数学	講義	2					○		助川公継							
		身体のかみくみと働き	講義	2					○		安嶋隆							
	実務と情報	マルチメディア演習	演習	2	○						佐藤隆		○					
		プレゼンテーション入門	講義	2					○		瑠雅文							
	人間と健康	健康とスポーツ	講義	1				○			国府田はるか			○	○			
		実技	1										○					
		ダンス入門	実技	1	○						国府田はるか							
	外国語	英語Ⅰ	演習	2				○			内桶真二		○	○	○			
英語Ⅱ		演習	2							内桶真二								
専 門 科 目	目 的	教育原理	講義	2				○			助川公継			○	○		〔専門科目〕 卒業要件:48単位以上 〔必修含む〕 △ 資格選択科目	
		保育者論	講義	2				○			小口恵巳子			○	○			
		子ども家庭福祉	講義	2				○			安藤みゆき				○			
		社会福祉	講義	2	○						梶井正紀				○	△		
		子ども家庭支援論	講義	2						○	小口恵巳子					○		
		保育原理	講義	2	○						小口恵巳子		○			○		
		社会的養護Ⅰ	講義	2					○		塩沢幸一					○		
		対 象	保育の心理学	講義	2	○						安藤みゆき		○	○	○	△	○
	子どもの理解と援助		演習	1					○		加茂川くるみ				○	○	△	
	子どもの保健		講義	2	○						渡辺政子		○		○	△		
	子どもの食と栄養		演習	2						○	北爪菜穂子					○		
	子ども家庭支援の心理学		講義	2						○	森井榮治				○	△		
	幼児理解と教育相談		講義	2					○		梶井正紀			○	△	△	○	
	幼児と音楽Ⅰ		演習	1					○		兼氏ちな美		○		○	○		
	幼児と音楽Ⅱ		演習	1	○						和泉田/八木澤：/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶					○		
	領 域	幼児と音楽Ⅲ	演習	1					○		和泉田/八木澤：/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶/富田					△		
		幼児と造形	演習	1					○		七字純子		○		○			
		幼児と表現	演習	1					○		富田浩子			○	○			
		幼児と健康Ⅰ	演習	1	○						国府田はるか		○	○	○			
		幼児と健康Ⅱ	演習	1					○		国府田はるか				○			
		幼児と言葉	演習	1					○		橋本祥子			○	○			
		音楽演習Ⅰ	演習	1					○		和泉田/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶						○	
		音楽演習Ⅱ	演習	1						○	馬立明美						○	
		音楽演習Ⅲ	演習	1					○		和泉田寛						○	
		日本語表現法Ⅰ	演習	1	○						瑠雅文					△		
		日本語表現法Ⅱ	演習	1					○		瑠雅文					△		
		幼児と環境	講義	2	○						助川公継			○	△			
		内容・方法	保育の計画と評価	講義	2	○						橋本祥子						
	教育課程論		講義	2					○		富田浩子			○	△			
	保育内容総論		演習	1	○						木村久美子		○	○	○			
	保育内容演習(健康)		演習	1						○	綿引喜恵子				○	○		
	保育内容演習(人間関係)		演習	1						○	橋本祥子				○	○		
	保育内容演習(環境)		演習	1					○		木村久美子				○	○		
	保育内容演習(言葉)		演習	1					○		綿引喜恵子				○	○		
	保育内容演習(表現)		演習	1					○		富田浩子				○	○		
	乳児保育Ⅰ		講義	2	○						永井裕美					○		
	乳児保育Ⅱ		演習	1					○		永井裕美					○		
	子どもの健康と安全		演習	1						○	秋山緑					○	△	
	特別支援教育の基礎		演習	2						○	梶井正紀			○	○	△	○	
	社会的養護Ⅱ		演習	1						○	安藤みゆき					○		
	子育て支援		演習	1						○	木村久美子					○	○	
	教育の方法と教育メディア		講義	2					○		佐藤隆				○	△		
	保育指導法		講義	2						○	加茂川くるみ			○	△			
	研 究		ゼミナール	演習	2						○	安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川		○		○		
			総合表現	演習	1						○	国府田/佐藤/馬立/梶井/加茂川/長谷川		○				
		教育・保育体験演習	演習	1	○						助川/富田/安藤/海野/橋本/国府田/馬立/綿引/梶井/小口/八木澤				○			
	実 習	教育実習指導	演習	1	○						橋本祥子			○				
		教育実習	実習	4					○		加茂川/木村/助川/安藤/佐藤/国府田/梶井/小口			○				
		保育実習指導Ⅰ-A	演習	1					○		佐藤隆				○			
		保育実習指導Ⅰ-B	演習	1					○		安藤みゆき					○		
		保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2					○		佐藤/助川/安藤/橋本/富田/国府田/馬立/梶井/八木澤				○			
		保育実習Ⅰ(施設)	実習	2					○		安藤/助川/佐藤/国府田/梶井/加茂川/木村/小口				○			
		保育実習指導Ⅱ	演習	1					○		国府田はるか					☆		
		保育実習Ⅱ	実習	2					○		国府田/助川/佐藤/安藤/梶井/加茂川/木村/小口					☆		
		保育実習指導Ⅲ	演習	1					○		安藤みゆき					★		
		保育実習Ⅲ	実習	2					○		安藤みゆき					★		
		総合演習	保育実践演習	演習	2						○	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口		○		○		
	教職実践演習	教職実践演習(幼稚園)	演習	2						○	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口			○				
資 格 取 得 科 目	こども音楽療育士	こども音楽療育概論	講義	2	○						馬立明美				○	こども音楽療育士 必修○ 8単位 選択△12単位以上 合計20単位以上必要		
		こども音楽療育演習	演習	1				○			馬立明美						○	
		こども音楽療育実習	実習	1					○		馬立明美						○	
	准学校心理士	※基礎資格要件 1条校(学校教育法)の教員免許状または保育士資格を有する者、かつ所定の単位を修得した者(取得見込みを含む)																

ナンバリング	54200		科目名	生涯学習概論	
担当教員	金子 未佳				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	人々が生涯のいつでも学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習」の本質と意義を理解し、これからの生涯学習社会について考察します。				
到達目標	生涯学習の本質と意義を正しく理解し、近隣地域における生涯学習の取り組みを学ぶことで、生涯学習を身近に感じ、今後の人生に役立てることが出来ます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 生涯学習概論を学ぶということ
- 02 生涯学習とは何か(1)生涯学習という概念、生涯学習社会の形成
- 03 生涯学習とは何か(2)生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育
- 04 生涯学習とは何か(3)生涯学習の現代的意義、小テスト(1)、生涯にわたる人間形成(1)生涯教育という概念と生涯学習という概念
- 05 生涯にわたる人間形成(2)人間形成と生涯学習、ライフサイクル論
- 06 生涯にわたる人間形成(3)生涯発達と発達課題、生涯設計と生涯学習
- 07 小テスト(2)、「ライフサイクルゲームⅡ」を活用し、それぞれの生涯設計を考える
- 08 生涯学習講座の企画立案、チラシ作成
- 09 生涯学習講座案の発表・投票、施設に基づいた生涯学習活動(1)広域の学習施設としての生涯学習推進センター、民間団体・機関による生涯学習支援：教育文化産業による生涯学習
- 10 施設に基づいた生涯学習活動(2)体験活動を支援する青少年教育施設、男女共同参画社会を目指す女性教育施設、生涯スポーツ施設としての体育施設、生涯学習の現代的課題：男女共同参画社会に対応した生涯学習
- 11 小テスト(3)、施設に基づいた生涯学習活動(3)指定管理者制度に関する課題
- 12 施設に基づいた生涯学習活動(4)自己学習支援施設としての図書館、専門的学習施設としての博物館
- 13 博物館資源と高齢者―「地図づくりプログラム」―、小テスト(4)
- 14 生涯学習講座(1)講義型

授業時間	【事前学修】
外の学修	図書館やインターネット資源を活用するとともに、実際に近くの生涯学習施設を見学し、講座等のイベントへ参加するなど、自主的に活動する。新聞記事や生涯学習関連の資料収集等、個別発表準備をしておく。 (約2時間)
	【事後学修】 授業で学んだ生涯学習施設について、ウェブサイト等で情報を収集し、最新の事業内容を調べる。 友人や家族と、これからの生涯学習社会についてディスカッションし、自分の意見をノートにまとめる。 (約2時間)
評価方法	小テスト4回（授業の理解を確認するためのもの）（25％）、課題（提出物・発表）（25％）、授業への取り組み（10％）、定期試験（40％）
アクティブラーニング	グループワーク、グループディスカッション、クイズ形式授業
フィードバック	授業毎の課題に対して個別指導及び全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○ 複数の図書館・博物館での勤務経験から、施設における生涯学習活動について、実例を交えながら分かりやすく解説する。
教科書	香川正弘，鈴木眞理，永井健夫編『よくわかる生涯学習 改訂版（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』 ミネルヴァ書房 2016
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	授業内の発表については個別に助言を行うとともに、全体講評のフィードバックを行います。 授業内の課題には、教員のコメントを記入し返却します。授業終わりにミニッツペーパーの提出があります。次回コメントを記して返却します。 グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。 別途、生涯学習講座の教材費（1人300円程度）を徴収することがあります。

ナンバリング	26121		科目名	キャリア形成ゼミⅡ		
担当教員	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口					
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 学生生活を充実させるとともに、就職活動や社会生活に必要な事項を学ぶことで自分になりたい保育者像をしっかりとイメージし、それに向かって各自が努力できるように学んでいきます。

到達目標 (1)就職に必要な情報を得るとともに、手順や手続きについて理解することができます。
(2)社会人として必要なコミュニケーション能力や教養、マナーを身に付け、学び続ける保育者を目指すことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション（授業の概要と見通し）
- 02 公務員試験の学習会及び相談会
- 03 交通安全セミナー
- 04 学科別研修会事前学習
- 05 学科別研修会（茨城県立あすなろの郷、大成学園かさまこども園）
- 06 学科別研修会の振り返り・スポーツフェスティバル計画
- 07 スポーツフェスティバル準備
- 08 スポーツフェスティバル
- 09 外部講師によるがん予防教育（子宮頸がんについて）
- 10 防火・避難訓練
- 11 保育科発表会（過去の資料検索や映像視聴等）
- 12 保育科発表会（グループ編成）
- 13 防犯講習会
- 14 履歴書の書き方・面接試験に向けて
- 15 撫子祭計画
- 16 撫子祭準備

- 17 撫子祭
- 18 映画鑑賞会
- 19 保育科発表会計画（グループ別）
- 20 実習報告会
- 21 保育科発表会準備
- 22 保育科発表会・1・2年係打ち合わせ
- 23 保育科発表会・1・2年係打ち合わせ
- 24 保育科発表会準備・リハーサル
- 25 保育科発表会リハーサル
- 26 保育科発表会
- 27 ゼミ紹介（教員・2年生より）
- 28 租税教室
- 29 就職活動の振り返り(1年生との交流)
- 30 1年間の振り返り・まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。
(約30分)

【事後学修】

自分の将来について考え、必要な情報を収集するなど積極的に進めてください。(約30分)

評価方法 授業への取り組み(50%)、レポート等の提出物(50%)
レポートの評価基準
1. 誤字脱字がなく、文章表現が適切でわかりやすいか (10%)
2. 求められている課題に内容が即しているか (20%)
3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか (40%)
4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか (30%)

アクティブ ラーニング グループワーク、プレゼンテーション、ライティング・ディスカッション

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし

参考書 なし

備考 グループや他者との関わり、外部講師による講話等を通して、社会人としての基礎的な行動様式を身につけるとともに、キャリアアップ等を図っていきます。

ナンバリング	34200		科目名	ボランティア活動論	
担当教員	埴 雅文				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 ボランティアに関する基礎知識と初歩的な技術を学び、学生のボランティア活動を支援します。大学内外における奉仕活動・体験活動の機会を設け、豊かな人間性や社会性を養います。社会問題や課題の解決に対して、単に行政や他者に求めるだけでなく、自分自身が自発的・主体的にその問題を解決していく力を養います。ボランティア活動よりのコミュニケーション力の向上を図ります。また、学生のボランティア体験が職業選択・進路決定の参考になるように支援します。

到達目標

- (1)ボランティアの基礎知識が得られます。
- (2)レクリエーション・車いす操作等の初歩的技能を習得できます。
- (3)ボランティア活動によりコミュニケーション能力が向上します。
- (4)社会問題・福祉問題の関心が深まります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 (1)授業の目的及び内容の説明 (2)受講に当たっての心がまえ等
- 02 (1)現代社会の特徴 (2)地域福祉活動の必要性 (3)ボランティア活動の基本的理解
- 03 (1)住み良い地域づくり (2)ボランティア活動の実際
- 04 (1)地域福祉とボランティア (2)地域におけるボランティアの現状
- 05 (1)大震災とボランティア (2)若者が活躍した災害への対応 (3)その後の国等のボランティア育成策 (4)震災被災者を支える活動
- 06 (1)高齢者福祉とボランティア (2)高齢社会の到来と要介護者の状況 (3)地域住民としての支援活動
- 07 (1)児童福祉とボランティア (2)最近の児童問題の概況 (3)地域での子どもの健全育成
- 08 (1)レクリエーションの体験をする。グループワーク
- 09 (1)障害者支援とボランティア (2)障害者福祉の現状と障害者のニーズ (3)地域での生活支援
- 10 (1)車イス等の体験をする (2)車イスの操作法習得グループワーク
- 11 (1)環境問題とボランティア (2)地球環境の保全策 (3)家電リサイクル法 (3)ボランティアとしての取り組み
- 12 (1)国際問題とボランティア (2)貧しい地域に住む人たちの現状 (3)ユニセフ等関係団体の支援活動 (4)われわれが

すべきボランティア活動

- 13 (1)ボランティア活動の種類 (2)私が行うボランティアは何か
- 14 (1)ボランティア活動者の心がまえ (2)活動時の留意点
- 15 (1)障害者とボランティア活動の実際

授業時間 【事前学修】

外の学修 毎回のテーマに沿って新聞、雑誌、書籍、インターネットから情報を集める。ノートに内容をまとめ、感想を書く。新聞記事などは切り抜き、ノートに貼る。グループごとに、ボランティア活動の練習する。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

授業で学習した内容を、友人と話し合い自分の意見をノートにまとめる。グループごとにボランティア活動の反省をする。

学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 定期試験（40％）授業への取り組み(40%)提出物（20％）

アクティブ ラーニング サービスラーニング 授業後レポート

フィードバック 授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし

参考書 なし

備考 グループワークを取り入れた授業を行いますので、積極的に参加してください。

ナンバリング	34200		科目名	生活と数学	
担当教員	助川 公継				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 私たちは社会生活を営む上で、様々な情報を処理し適切な判断をすることが求められています。情報を整理し、必要に応じて計算をして判断するというプロセスや、あるいは、数学的に処理された膨大な情報を、どのように解釈し活用していくかという場面もあります。数学的な見方や考え方、論理的な思考を養うために、具体的な問題演習を行いながら、基礎的な知識を身につけていきます。

到達目標 (1)分類したり、比較したり、関係づけたり、予測したりすること等を通して課題を解決することができます。
(2)身近な生活における数学的な問題や公務員試験で出題されるような問題を、数学的な見方で考え判断し、説明することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (本講座の目的、授業の進め方、受講上の注意について)
- 02 文章の数式化と問題の解法 (鶴亀算と連立方程式)
- 03 仕事の進み具合の数式化
- 04 損益の判断について (仕入れと利益)
- 05 速さ・時間・距離について
- 06 場合の数について
- 07 順列・組み合わせについて
- 08 確率について
- 09 精算と割引料金
- 10 分割払いについて (頭金、利子、手数料等)
- 11 推論について (順位、その他の推論)
- 12 集合について
- 13 領域の形 (不等式と領域)
- 14 条件から方程式をつくる

授業時間	【事前学修】
外の学修	シラバスで次回の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。 (約2時間)
	【事後学修】
	学習をより深いものとするために、テキストを活用したり実際の公務員試験問題を解いたりしながら復習してください。わからないところは参考書で確認したり質問したりするなど積極的に進めてください。(約2時間)
評価方法	(1)授業への取り組み(30%)(2)課題への取り組み(30%)(3)定期試験(40%)
アクティブ ラーニング	グループワーク、問題解決学習、グループテスト
フィード バック	・自らの考えを説明したり、話し合ったりすることを通して学んでいきます。 ・授業内容に関しては、毎時間振り返りを行います。
実務経験	
教科書	最新最強のSPIクリア問題集 成美堂出版社
参考書	公務員採用試験問題集, 保育士・幼稚園教諭採用試験問題集（保育士試験研究会編）等
備考	課題解決にあたっては、グループで対応するような形態を導入します。

ナンバリング	26200		科目名	英語 II	
担当教員	内桶 真二				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 基礎から一歩進んだ英語運用能力（読む、書く、聞く）を養うことを目的とします。(1)デジタル・オンライン教材で英語のさまざまな表現を学びます。(2)教科書で基本事項を確認し、オンラインで練習問題に取り組み、学習内容を確認し、定着をはかります。(3)履修者のペースで学習を進め、前期はUnit 7まで、後期はUnit8から14までを予定しています。

到達目標 (1)英語と日本語の違いに注意しながら、英語のさまざまな事項を身につけ、英語の基本から一歩進んだ表現が活用できるようになる。(2)外国語の学習を通じて、異なる文化の存在を意識することができる。(3)外国語の学習を通じて、日本語・日本文化を見つめ直すと同時に、たゆまぬ努力を積み重ね、自立した学習者、自立した社会人となるための勤勉さを身につける。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 導入 授業の進め方、システムの利用法、オンライン利用登録・練習
- 02 現在・過去(1) 予定を尋ねる・あいさつ -- 確認
- 03 現在・過去(1) 予定を尋ねる・あいさつ -- 発展
- 04 現在・過去(2) あいさつ(2)・詳細を尋ねる-- 確認
- 05 現在・過去(2) あいさつ(2)・詳細を尋ねる-- 発展
- 06 進行・未来 海外出張・予定の確認-- 確認
- 07 進行・未来 海外出張・予定の確認-- 発展
- 08 現在完了 出張報告 経験を語る-- 確認
- 09 現在完了 出張報告 経験を語る-- 発展
- 10 助動詞 プレゼン作成(1) 依頼 助言-- 確認
- 11 助動詞 プレゼン作成(1) 依頼 助言-- 発展
- 12 受動態 電話対応 説明-- 確認
- 13 受動態 電話対応 説明-- 発展
- 14 不定詞 使用法を説明する-- 確認

- 15 不定詞 使用法を説明する-- 発展
- 16 導入 授業の進め方、システムの利用法、利用登録などの再確認 前期の復習 後期へ向けての確認練習問題
- 17 関係詞 比較 意味を尋ねる -- 確認
- 18 関係詞 比較 意味を尋ねる -- 発展
- 19 動名詞 初対面のあいさつ・意見を述べる-- 確認
- 20 動名詞 初対面のあいさつ・意見を述べる-- 発展
- 21 形容詞・副詞 意見を求める・理解を示す-- 確認
- 22 形容詞・副詞 意見を求める・理解を示す-- 発展
- 23 関係詞(2) 案内する・提案する-- 確認
- 24 関係詞(2) 案内する・提案する-- 発展
- 25 分詞 プレゼンする 順序を示す・強調する-- 確認
- 26 分詞 プレゼンする 順序を示す・強調する-- 発展
- 27 比較 感想を述べる-- 確認
- 28 比較 感想を述べる-- 発展
- 29 仮定法 面接・用件を尋ねる-- 確認
- 30 仮定法 面接・用件を尋ねる-- 発展

授業時間 【事前学修】

外の学修 知らない単語や語句を調べるなどの事前学習が1時間必要となります。

【事後学修】

空き時間などを利用し練習問題を繰り返し1時間（1回20分週3回程度）復習することが学習内容を定着させる早道であり、必要です。テキストの練習問題には、自宅のコンピュータやスマートフォンなどからもアクセスできます。

評価方法 練習問題の成果(取り組んだ回数と得点)を含む授業への取り組み(60%)、定期試験(40%)

アクティブ
ラーニング ロールプレイ、クイズ形式

フィード
バック 教材管理システムが即時フィードバックを行う

実務経験

教科書 Let's Read Aloud More! 角山・Capper 成美堂

参考書 辞書（電子辞書・オンライン辞書）。その他は必要に応じて指示します。

備考 イヤフォンを持参すること。ユニットが終了するごとに担当教員と受講者がポイントの確認を口頭とプリントで行い、定着をはかります。英語Iのおおよそ倍のペースで進めていきます。

ナンバリング	25221		科目名	子ども家庭支援論	
担当教員	小口 恵巳子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 平成28年、「仕事・子育て両立支援事業」が創設されました。男女問わず、国民が、就労を継続しながら「安心して子どもを産み育てることができる環境」を整備するためには、それを支援する担い手が必要となります。保育者は、子育て支援・養育支援の中核的存在と位置しています。このような状況を踏まえて、子育て中の家庭支援についての現状や支援の方法を具体的な事例を通して学んでいきます。この授業では、グループに分かれてディスカッションを行い、保育と家庭支援のつながりについての理解を深めるところを図ります。

到達目標 次の2点を身につけることを通して、具体的な支援の方法について自分の意見を考えることができるようになります。

- ・家庭を取り巻く社会状況を理解したうえで、なぜ家庭支援が必要なのか、説明することができます。
- ・家庭における人間関係について理解したうえで、どのような支援が必要か理解できます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス：家庭支援とは何か
- 02 子どもが育つ家庭の意義と機能
- 03 家庭支援の必要性
- 04 保育者が行う家庭支援の原理
- 05 現代家族の人間関係と子育て
- 06 地域社会の変容と家庭支援
- 07 男女共同参画社会とワークライフバランス
- 08 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 09 子育て支援サービスの概要
- 10 子育て家庭の福祉と社会資源
- 11 家庭と保育者の連携
- 12 特別な対応を要する家庭に対する支援

- 13 子育て支援における関係機関との連携
- 14 子育て支援サービスの課題
- 15 家庭支援に関するまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 テキストの該当箇所を事前に読んでおき、わからない語句などを調べておく。子育て支援に関するニュースなどに関心を持ち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

授業のまとめを行う。その際、支援の中核的存在としての保育者の役割について自分の意見をノートにまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 (1) 定期試験 (40%) (2) リアクションペーパー (30%) (3) 授業への取り組み (30%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション 映像活用学習 ケースメソッド

フィードバック 提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。

実務経験

教科書 谷田貝公昭他監修『コンパクト版 保育者養成シリーズ 家庭支援論』（2018）一藝社

参考書 必要に応じて講義内で紹介します。

備考 筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	24221		科目名	社会的養護I	
担当教員	塩沢 幸一				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 社会的養護について、その意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、制度や実施体系、今後の課題などを学びます。またこの授業では、施設での子どもたちの暮らしを支える保育士や関係する専門職の支援内容についても学び、施設実習に向けて社会的養護の理解を深めていきます。

到達目標

- 1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明することができます。
- 2.子どもの人権を踏まえた社会的養護の基本について具体的に述べるすることができます。
- 3.施設で暮らす子どもたちを支える保育士の役割について、自分の考えを述べるすることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション、社会的養護とは何か
- 02 子どもの権利擁護と社会的養護
- 03 社会的養護の基本原則
- 04 社会的養護の制度と法体系
- 05 社会的養護の仕組みと実施体系
- 06 社会的養護の対象
- 07 社会的養護に関わる専門職
- 08 社会的養護における保育士等の倫理と責務
- 09 施設等の運営管理
- 10 社会的養護の歴史的変遷
- 11 家庭養護と施設養護
- 12 被措置児童等の虐待防止
- 13 社会的養護と地域福祉
- 14 施設での子どもたちの暮らしを支える保育士の支援内容

授業時間	【事前学修】
外の学修	次回の授業の範囲のテキストを読み、わからない単語、興味を持った内容について調べてまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。 【事後学修】 授業内容について復習し、授業で扱ったテーマと関連する報道などに興味を持ち調べる。学修の目安は約2時間程度とする。
評価方法	定期試験を実施します。 授業への取り組み30% レポートなどの提出物30% 定期試験40%
アクティブ ラーニング	
フィード バック	
実務経験	○ 社会的養護施設の施設長としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。
教科書	図解で学ぶ保育 社会的養護1、原田旬哉・杉山宗尚編著、2018年発行、(株)萌文書林
参考書	なし
備考	なし

ナンバリング	24252		科目名	子どもの理解と援助	
担当教員	加茂川 くるみ				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☒ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 実際の保育実践にあたり、目の前の子どもをどのように理解していくか、更には子どもの心身の発達や環境の違いによって、子どもたちの様子を正確に捉えるための視点と観点を具体例や実践例を提示し、その目を養う。また実践例や資料から、グループ討議をして、相互に保育者としての見取りの力や対応力をつけていきたい。その上で、配慮を要する子どもの保育や就学に向けた支援についても目を向けられる広い視野をもつ保育者の育成を目指したい。

到達目標

- 1 保育実践するにあたり、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握する意義を理解することができる。
- 2 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解することができる。
- 3 現場の実態例や実践事例をとおり、子どもを理解するためのその場に応じた具体的な方法を理解することができる。
- 4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践に即して使いこなすことができる。

学位授与の方針【表現文化学科】

- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 保育における子ども理解の意義
 - ・ 保育者の仕事と子ども理解
 - ・ 保育所保育指針と子ども理解
 - ・ 演習
- 02 子どもに対するかかわりと共感的理解
 - ・ 共感的理解とは
 - ・ 演習
 - ・ アクスラインの遊戯的療法の8原則
- 03 子どもの生活や遊び
 - ・ 乳幼児の生活と基本的生活習慣の獲得
 - ・ 乳幼児期の遊び
 - ・ 演習
- 04 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
 - ・ 子どもの発達と保育者の役割
 - ・ 保育者のかかわりで子どもが変わる
 - ・ 演習
- 05 子ども相互のかかわりと関係づくり
 - ・ 3歳未満児、3歳以上児におけるかかわり
 - ・ 子ども相互のかかわりを生み出すもの
 - ・ 演習
- 06 集団における経験と育ち
 - ・ クラス集団との出会い
 - ・ 遊び集団の成立・異年齢集団の中の子どもの育ち
 - ・ 演習
- 07 発達における葛藤やつまずき

・ いざこざの発達的变化と保育者の援助 ・ 自我の発達にかかわる保育者の援助 ・ 演習

08 保育者の環境と理解と構成

・ 環境とは 子どもと環境・保育者の環境・環境構成の原則 ・ 演習 ・ 環境が脳をつくる

09 環境の変化や移行

・ さまざまな環境の変化や移行の場面 ・ 環境の変化や移行に影響する要因 ・ 演習

10 子ども理解のための観察・記録と省察・評価

・ 保育における「子ども理解」とは ・ 子どもを理解する方法 ・ 演習

11 子ども理解のための職員間の対話・同僚性

・ 保育における対話と協働 ・ 対話の機会を生む保育カンファレンス ・ 演習

12 子ども理解のための保護者との情報共有

・ 保育所保育指針等にみる保育者との情報共有 ・ 演習 ・ 子ども理解のための保護者との情報共有のポイント

13 発達の課題に応じた援助とかかわり

・ 個人差と発達過程 ・ 発達の課題に応じた保育実践 ・ 演習

14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助

・ 特別な配慮を要する子どもとは ・ インクルーシブ教育 ・ 理解されにくい子どもへの配慮と援助 ・ 演習

15 全体のまとめ

発達の連続性と就学への支援

・ 幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性 ・ 幼少接続期におけるさまざまな連携 ・ 演習

授業時間 【事前学修】

外の学修

・ 次時の課題を知り必要な資料を集めたり専門的用語の確認をしたりしておく。また、保育にかかわる報道記事などを集めたり、自分なりの考えや疑問を書きとめておく。(随時)

・ 授業でえた知識や技術さらに教育実習をととしての経験を基に、保育者としての在り方について自分の考えをまとめておく。(約1時間)

【事後学修】

・ 授業内でまとめた記録や小レポートは内省し事後の感想など書き入れ実践に生かすようにする。(1時間)

・ 保育者を目指す仲間との意見交換など授業の中の演習を大切に、実習など授業外で主体的に子どもにかかわっていく。

評価方法

・ 授業内小レポート3回提出 60% ・ 授業・演習への取組・記録用紙 毎回 40%

評価基準

1 求められている課題に内容が即しているか。(20%)

2 課題の考察が十分に授業内容を加味したものになっているか。(20%)

3 内容が自分のものとして、内省できているか。(20%)

アクティブラーニング

○ 5名程度の少人数によるワークショップで自分の考えまとめたりお互いの考えを共有したりする活動を通して自分の考えを深め広げていく。

○ 演習やグループディスカッション後自分の経験と関連させて振り返りをするリフレクティブジャーナル実施

○ 授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめるキーワードレポートを実施

フィードバック

・ グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に、保育に対しての自分の考えが深まったり、違った視点の発見や視野が広がるような聞き方を課します。

・ 小レポートについては、必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却します。

実務経験

○ 小中学校や幼稚園勤務経験を活かし、幼児教育の重要性と小学校への接続について、現場の実態をととして、今後の保育者としてどう在るべきかまでを考え、自ら意欲的に保育者としての資質向上を目指そうとする姿勢が養えるようにしたいと考えています。

教科書

新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助 中央法規 清水益治 森俊之編集

参考書

その他必要に応じ、授業内で適宜紹介する。

備考

グループディスカッションに、積極的に参加するには自分の考えを常に持っていることが重要です。幼児教育に関することについて情報をあつめ、関心をもつてのぞみましょう。

ナンバリング	26221		科目名	子どもの食と栄養		
担当教員	北爪 菜穂子					
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 子どもの健やかな発達・発育を促すための、食生活や栄養に関する基礎知識を習得します。また、家庭や児童福祉施設における食生活の課題、食物アレルギー疾患、特別な配慮を要する子どもへの対応について学びます。「食育」の基本と内容を理解し、保育現場で実践できることを目指します。グループで協力し、課題を見つけ、技術を高め合うことを目的に、調理実習や実験を多く取り入れています。

到達目標 1)妊娠期(胎児期)、乳幼児期、学齢期、思春期、高齢期など、それぞれのライフステージに応じた望ましい栄養摂取の方法を理解し、生涯を通じて健康な食生活を営むことができる知識を習得できます。2)子どもたちが食べものに興味をもち、食べることを楽しむことができるように導くことができます。3)子どもたちが「食」を通じて人と関わる力が育まれるように、家族や地域と連携しその環境を整えることができます。4)日本の伝統や食文化について知り、それを継承することができます。5)食物アレルギー疾患や障がいのある子どもの食事摂取に対し適切に対応することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 子どもの健康と食生活の意義1)日本人の健康問題と食生活上の問題
- 02 子どもの健康と食生活の意義2)子どもの食生活の現状と課題
- 03 子どもの発育・発達と食生活1)身体発達・精神・運動機能発達と栄養・食生活
- 04 子どもの発育・発達と食生活2)食べる機能(摂食・嚥下)の発達と消化吸収機能
- 05 子どもの発育・発達と食生活3)食欲・味覚・嗜好の発達4)偏食の対策5)排泄・排尿
- 06 母乳栄養と人工栄養について・調乳方法・調乳実習
- 07 栄養に関する基礎知識1)エネルギー代謝・糖質の働き
- 08 栄養に関する基本的知識2)脂質・たんぱく質の働き
- 09 栄養に関する基本的知識3)・ビタミン・ミネラルの働き
- 10 献立作成と調理の基本・野菜を使ったおやつ作り(調理実習)
- 11 妊娠期(胎児期)の食生活・妊娠のメカニズムと妊婦の食生活
- 12 乳児期の栄養と食生活1)乳児期の生理的特徴と食生活の関係
- 13 乳児期の栄養と食生活2)母乳栄養と人工栄養の特徴

- 14 乳児期の栄養と食生活生理3)離乳の意義とその実践
- 15 幼児期の栄養と食生活1)幼児期の心身の特徴と食生活の関係
- 16 幼児期の栄養と食生活2)偏食・食欲不振・噛めない子どもへの対応
- 17 幼児期の栄養と食生活3)間食の意義とその実践
- 18 学童期と思春期の栄養と食生活・学童期と思春期の身体発達の特徴と食事摂取基準
- 19 「食育基本法」・食育の目標・食育指導計画
- 20 食育の実践1)媒体を使った食育活動の実践「食育かるた」・「食育ビンゴ」
- 21 食育の実践2)媒体を使った食育活動の実践 食育マスコット「三色食品群って何？」・食育エプロンシアター「何でも食べて元気いっぱい」
- 22 食育の実践3)「クッキング保育」の計画と実践
- 23 食育の実践4)食育の評価・「食育便り」作り
- 24 食の安全性・食品表示・食品添加物・遺伝子組み換え食品・健康食品・サプリメント
- 25 児童福祉施設における食事と栄養1)児童福祉施設給食の基本方針
- 26 児童福祉施設における食事と栄養2)保育所給食の意義と内容
- 27 児童福祉施設における食事と栄養3)給食施設の衛生管理・食中毒
- 28 特別な配慮を要する子どもの食事と栄養1)食物アレルギーの子どもへの対応と除去食
- 29 特別な配慮を要する子どもの食事と栄養2)疾病及び体調不良の子どもへの対応
- 30 特別な配慮を要する子どもの食事と栄養3)障がいがある子どもへの対応

授業時間 【事前学修】

外の学修 自身の食生活について振り返り、現代の子どもや若者の食生活上の課題を見つけ出し、プリントにまとめる。
(1時間程度)

【事後学修】

テキストや授業で配布されたプリントを復習し、子どもの栄養バランスを考えた食事や、食べる楽しさを体験できる食育の計画をプリントにまとめる。(2時間程度)

評価方法 定期試験60%、提出物(授業プリント提出30回)30%、 授業への取り組み10%

アクティブ ラーニング グループディスカッション・グループワーク

フィードバック 授業の終わりに提出してもらうプリントにコメントや評価を記入して返却します。

実務経験 ○ 高等学校及び中学校の家庭科担当の講師として勤務している実務経験を活かし、現代社会の食の問題点を指摘し、改善のための提案を行います。また、食への関心が深まるように実践に役立つ授業を行います。

教科書 子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養 堤ちはる・土井正子 編著 ISBN 978-4-89347-154-3

参考書 「食べない子が変わる魔法の言葉」 山口健太著 ISBN978-4-7778-2416-8 「食卓の力」で子どもが変わった！いっしょに食べて心を育てる 室田洋子著 ISBN978-4-86255-029-3

備考

ナンバリング	26262		科目名	子ども家庭支援の心理学	
担当教員	森井 榮治				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☒ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 この授業では、生涯発達という観点から、乳幼児期から老年期までの発達課題について学びます。次に、子どもの発達に重要な役割を果たす家族・家庭の意義や機能、家族関係や親子関係の理解するとともに、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について学びます。さらに、子どもの心身の健康と保健について理解し、子どもの生活環境や精神疾患や障害のある子どもへの支援について学びます。

到達目標 (1)生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題等について理解することができます。(2)家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家庭環境等について発達の観点から、子どもとその家庭を包括的に捉えることができます。(3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができます。(4)子どもの精神保健とその課題について理解することができます。

学位授与【表現文化学科】

の方針

- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 乳幼児期の発達
- 02 児童期の発達
- 03 青年期の発達
- 04 成人期・高齢期の発達
- 05 家族・家庭の意義と機能
- 06 親子関係・家族関係の理解
- 07 子育てを取り巻く社会状況
- 08 ライフコースと仕事・子育て
- 09 多様な家族の現状
- 10 配慮を要する(1)保護者の疾患や障害
- 11 配慮を要する(2)虐待
- 12 子どものストレス
- 13 睡眠、食事、排泄にかかわる症状

14 子どもに見られるその他の症状

15 発達障害

授業時間 【事前学修】

外の学修 次時の学修課題のワークシートをまとめる。子育て家庭に関する新聞記事等をスクラップブックに貼る（約2時間）

【事後学修】

学修内容に関する課題をまとめ提出する。授業で使ったワークシートや配付された資料を使い、授業の復習と振り返りする。（約2時間）

評価方法 授業に関する提出物(ワークシート等)60% 定期試験40%

アクティブ ラーニング グループディスカッション，グループワーク等

フィードバック 授業に関するワークシート等の提出物にはコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 小中学校において生徒指導や教育相談を担当していた経験を生かし，様々な課題を抱える子どもや保護者の支援のあり方を，生涯発達や家族や親子関係，子どもの精神保健等の観点から考えます。

教科書 スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 杉崎雅子〔著〕萌文書林

参考書 授業中に適宜紹介します。

備考 提出された課題は、授業の中で取り上げます。また、評価の対象となります。

ナンバリング	24242		科目名	幼児理解と教育相談	
担当教員	梶井 正紀				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☒ 選択 (保) ☒ 選択 (こ) ☒ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	現代の子どもを取り巻く生活環境を確認しながら幼児期の発達の道筋や特徴、親子関係について学びます。また、保護者に対しての相談・支援方法の技術を説明することができる。				
到達目標	1. 幼児の心身の発達への理解を深めるとともに、保護者との相談活動のすすめ方、連携の取り方を身に付けることができる。 2. 来談者中心療法をはじめとするカウンセリングのスキルを説明することができます。 3. 近年の課題である不登校やいじめ等の背景を理解することができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 カウンセリングとは何か
- 02 現代社会における幼児の環境について
- 03 発達や学びの確保・保育の質について
- 04 特別な配慮を要する子どもについて
- 05 発達障害児への理解と援助の方法について
- 06 保育の中での臨床心理学的視点
- 07 子どもを理解するための方法
- 08 記録と指導計画について
- 09 アセスメントの目的と方法
- 10 教育相談の基礎と方法
- 11 スクールカウンセラー等専門機関との連携の方法
- 12 保育者のキャリアアップについて
- 13 保育現場における様々な課題 (いじめ、不登校)
- 14 子どもの問題・課題に対してのディスカッション (予防・早期発見・介入等)

授業時間	【事前学修】
外の学修	保育現場における子ども・保護者の理解とカウンセリングに関することを調べ、ノートにまとめる。(約2時間)
	【事後学修】
	発達や育児に困難や課題を抱える親子や家族への理解を深めるために新聞やニュースを見て気づいたことをノートにまとめる。(約2時間)
評価方法	レポート50%、ミニレポート50% レポートの評価基準 1 誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる(50%) 2 内容がテーマに即している(40%) 3 専門用語を説明でき、論理的に記述することができる(10%)
アクティブ ラーニング	ペアグループワーク 映像活用学習 ケースメソッド
フィード バック	ミニレポートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。
実務経験	○ 教育支援委員会の教育支援委員、通常の学校の特別支援教育コーディネーターとしてのスキルを実務経験を生かし、子どもの実態把握の方法等について提示しながら実践的な授業を行う。
教科書	小田豊他(2018)『保育臨床相談』北大路書房 (ISBN978-4-7628-2658-0)
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
備考	授業の最初に前回の内容のフィードバックを行います。また、授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	24271		科目名	音楽演習I	
担当教員	和泉田/清水/根本/阿部/平根/兼氏/陶				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☒ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 子どもの音楽活動を支援するピアノ伴奏や弾き歌いの技能をさらに高めます。個人と小集団のレッスン・演習を組み合わせた授業形態で、各自の弾き歌いを含めたピアノ演奏技能を高めるとともに、保育の場で実際に起こり得る場面を想定した実践的な指導法を学びます。さらに、身につけた発声法を生かして伸びやかな声での表情豊かな弾き歌いを目指します。

到達目標 (1)ピアノの弾き歌いや歌唱の技能を高め、実際の保育の場で子どもたちと楽しく音楽活動ができるようにします。(2)参加者同士が協力して教材研究したり、効果的な指導法を工夫したりする楽しさ感得します。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション(全体)
個人レッスン：自由選択曲の演奏
- 02 個人レッスン：夏の楽曲のピアノ演奏(伴奏の工夫)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子どもにあったテンポ・表現)
- 03 個人レッスン：夏の楽曲の弾き歌い(楽曲の構成を生かした表現)
- 04 個人レッスン：秋の歌のピアノ演奏(歌い出しの合図)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(ピアノと歌唱のバランス)
- 05 個人レッスン：秋の楽曲の弾き歌い(発声の基本：発音・口形)
- 06 個人レッスン：生活の歌のピアノ演奏(伴奏の工夫：リズム楽器の導入)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(フレーズを生かした表現)
- 07 個人レッスン：生活の歌の弾き歌い・子どもの歌のピアノ演奏(リズムの特徴を生かしたヒ表現)
- 08 個人レッスン：子どもの歌の弾き歌い(歌詞の内容を生かした表現)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(簡易合奏形態の活動)
- 09 個人レッスン：実際の保育の場を想定した弾き歌い(発声の基本：呼吸・息つぎ)
- 10 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲のピアノ演奏(諸記号の理解)
小集団演習：保育の場を想定した弾き歌い(子ども(役)を見ながらの弾き歌い)

- 11 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(環境設定の工夫)
※小テスト(ピアノ弾き歌い)課題曲の提示
- 12 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(導入の工夫)
小集団演習：小テスト
- 13 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(展開の工夫)
- 14 個人レッスン：保育実習に向けた楽曲の弾き歌い(教材の工夫)
- 15 個人レッスン：既習曲の演奏・保育実習までの練習計画

授業時間 【事前学修】

外の学修 課題となる楽曲の旋律やリズム、歌詞などを把握し、弾き歌いの練習を重ねてください。(約1時間)

【事後学修】

ピアノの弾き歌いの表現を自分なりに工夫するなどして技能の定着を図ってください。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み(50%)小テスト(50%)

アクティブ ラーニング 子どもが主体的に取り組める音楽活動や身体表現を加えてより表現力を高める指導法などについて各自の考えを出し合います。その効果等について子どもの立場になって活動することで検証します。

フィードバック ピアノの弾き歌いや音楽活動についての考えについて、その都度アドバイスをします。授業終了時には各自の記録用紙に評価を加えて返却し、取り組みの成果や課題を明確にします。

実務経験

教科書 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1 ISBN978-4-05-154163-7
保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集2 ISBN978-4-05-154164-4

参考書 幼稚園教諭・保育士養成課程「幼児のための音楽教育」教育芸術社 ISBN978-4-97788-443-7

備考 小集団の演習では、子どもの楽しい音楽活動を促す方法について理解を深めるとともに、保育者役と子ども役に分かれ、実際の保育場面を想定して対象(子ども役)を見ながらのピアノ伴奏や弾き歌いができるようにしていきます。

ナンバリング	25271		科目名	音楽演習II	
担当教員	馬立 明美				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☒ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	保育の中で様々な年齢、発達段階の子ども達に対応する音楽知識や技術を習得します。この授業では年齢別季節別の教材や環境構成についての研究や音楽表現の方法をグループワークで考察し、幼稚園で実践します。また、四季の歌と手遊び歌を把握し指導できるようになります。				
到達目標	(1) 子どもの発達を理解し年齢に応じた音楽を考察し季節の歌、楽器あそび、手あそびを学修し自信をもって指導ができるようになります。 (2) 絵本や紙芝居に音やリズムをつけることができるようになります。 (3) 音楽の基礎知識に加え教材研究や作成ができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション
保育者に必要な音楽基礎知識1：音・拍子・音符・リズム
- 02 保育者に必要な音楽基礎知識2：音程・和音・発声・音域・伴奏
- 03 楽器あそびを中心とした表現活動1：楽器の種類と取り扱い方
- 04 楽器あそびを中心とした表現活動2：合奏の作り方、合わせ方、演奏法
- 05 保育現場の子どもの音楽的表現1：子どものあそびと表現
- 06 保育現場の子どもの音楽的表現2：子どもの発達と音楽
- 07 歌唱・声を中心とした表現活動1：子どもの歌と歴史
- 08 歌唱・声を中心とした表現活動2：音楽あそび教材
- 09 保育現場の子どもの音楽的表現3：紙芝居と音楽（教材選び）グループワーク
- 10 保育現場の子どもの音楽的表現4：紙芝居と音楽（読み合わせ・音合わせ）グループワーク
- 11 保育現場の子どもの音楽的表現5：紙芝居と音楽（幼稚園で実践）グループワーク
- 12 子どもの音楽表現活動1：指導計画の概要
- 13 子どもの音楽表現活動2：年齢別指導計画作成・練習・実施（0，1，2歳児）

14 子どもの音楽表現活動3：年齢別指導計画作成・練習・実施（3，4，5歳児）

15 音楽発表とまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 これまで学修した楽譜をまとめて多くの曲を把握しておいてください。また、絵本や紙芝居に合わせる音を考えておいてください。(約1時間)

【事後学修】

他グループの発表の音楽も参考にして絵本に合わせる音を実践してみましょう。また、就職に向けて伴奏や弾き歌い、手遊びのレパートリーを増やしておいてください。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み50%、課題のプリント提出30%、成果発表20%

アクティブ ラーニング グループディスカッション クリエイティブセッション

フィードバック 提出ノートには、教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 幼稚園、保育園での音楽指導および小学校、中学校の音楽教員の実務経験を活かし様々な音楽表現活動について実践的な授業を行う。

教科書 神原雅之 鈴木恵美子（2014）幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』教育芸術社

参考書 今泉明美 有村さやか編著（2018）幼稚園教諭・保育士養成課程『子どものための音楽表現技術』萌文書林

備考 授業内での発表について、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	25231		科目名	保育内容演習（健康）	
担当教員	綿引 喜恵子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		

授業概要 乳児及び幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。特に乳幼児の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め実務経験を生かしアクティブラーニングの技法を取り入れ具体的な保育場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

到達目標 (1) 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力が習得できます。(2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を述べることができます。(3) 領域「健康」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し保育の構想に活用することができます。(4) 子どもが保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点を踏まえ指導案の構造を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができます。(5) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりが理解できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 乳児及び幼児教育の基本（保育の専門性、保育内容）
- 02 領域「健康」のねらいと内容の理解
- 03 乳幼児期の生活習慣の形成(食育)
- 04 乳幼児期の生活習慣の形成（衛生管理）DVD視聴アレルギー疾患の対応
- 05 健康な心と体を育む保育の構想(教材研究) 健康指導のための教材作り
- 06 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育）DVD視聴後ディスカッション
- 07 自然環境と子どもの健康(遊びや生活の中での動きの経験を促す環境構成と援助)
- 08 子どもの心の健康（DVD視聴 幼児の内面の捉え）
- 09 子どもの心の健康（育ちにに応じた環境構成の在り方、計画立案）
- 10 子どもの健康と運動遊び(運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導)

- 11 子どもの健康と運動遊び（運動遊びの指導の実際 指導案の作成）
- 12 乳幼児期の安全教育（交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助、特別な配慮を要する子どもへの援助を含む）
- 13 乳幼児期の安全教育（教材作成、模擬保育、振り返り）
- 14 健康な心と体を育む保育の評価と改善（PDCAサイクルから）
- 15 小学校への接続に向けて（アプローチ・スタートカリキュラム）まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 教材研究をし、保育の内容を考察するなど自主的な学修が必要とされる。(約1時間)

【事後学修】

授業内容を踏まえ、模擬保育に向けての指導計画作成(約1時間)

評価方法 1 授業への取り組み 20% 2 課題への取り組み 20% 3 定期試験 60%

アクティブ ラーニング 映像活用学習 クリエイティブ・セッション

フィードバック 提出レポート、指導案には、教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 幼稚園（副園長）で勤務していた実務経験を活かし、領域「健康」の内容に基づき幼児の発達に添った関わり方について実践的な授業を行う。

教科書 授業で使用する資料については全て配布

参考書 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 I S B N978-4-577-81245-7
 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 I S B N978-4-577-81246-6
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省 I S B N978-4-577-81449-9

備考 グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加して下さい。自分で考えた意見や思いが言えるようにし、他のメンバーの意見を真摯に受け止め、再度考えて自分の意見を確かなものにすることを求めます。
 授業内のレポートについて、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	25231		科目名	保育内容演習（人間関係）	
担当教員	橋本 祥子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		
授業概要	保育の現場における多様な人間関係(保育者と子ども、子ども同士、保育者と家族、保育者同士、保育者と関係機関等)と、それらを通した保育者や子どもの「育ちあい」についてDVD映像や事例をもとに学びます。				
到達目標	(1)養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得することができます。(2)乳児期及び幼児期の遊びや生活の中で育つ、人と関わる力の発達について理解することができます。(3)子どもが生活や遊びにおいて体験している人間関係を捉えたとともに、留意したり配慮したりすべき事を理解し、子どもと関わる力を高めることができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 幼児教育の基本と人との関わり
- 02 領域「人間関係」と他領域との関係
- 03 乳幼児の発達と領域「人間関係」
- 04 乳幼児期の保育者との関わり(DVD視聴)
- 05 遊びのなかの人との関わり(1)遊びの発達と人間関係
- 06 遊びのなかの人との関わり(2)遊びの創造と人間関係(模擬保育)
- 07 生活を通して育つ人との関わり 小テスト
- 08 個と集団の育ち(1)遊びの発達と人間関係
- 09 個と集団の育ち(2)協同性を育む
- 10 3歳児の遊びと人間関係(DVD視聴) グループディスカッション
- 11 4、5歳児の遊びと人間関係(DVD視聴) グループディスカッション
- 12 人とかかわりを見る視点
- 13 人間関係を促すふれあい遊び 模擬保育・グループディスカッション
- 14 幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」(1)人との関わりを育む幼児教育の今 小テスト

授業時間	【事前学修】
外の学修	乳幼児の各年代における関係性について、ノートにまとめる。 授業内容(授業中に配布したプリントなど)についてプリントをよく読み、自分の意見をノートにまとめる。 (約1時間)
	【事後学修】 授業内容(授業中に配布したプリントなど)についてプリントをよく読み、自分の意見をノートにまとめる。 (約1時間)
評価方法	授業への取り組み15% 小テスト(2回)60% レポート25% (提出期限・適切な表現・内容・課題の考察・誤字脱字)
アクティブ ラーニング	映像活用学習 グループディスカッション 体験学習
フィード バック	提出レポートには、全体への講評及び個別に評価とコメントを記入して返却します。
実務経験	○ 国公立幼稚園教諭、公立幼稚園教頭、認定こども園副園長等の実務経験を活かし、保育現場における多様な人間関係と、それらを通じた保育者や子どもの「育ちあい」について具体的事例を通してながら授業を行っている。
教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針 厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省厚生労働省
備考	・グループディスカッションや体験学習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。・授業内レポートについて、個別のフィードバックを行います。また、内容によっては全体講評のフィードバックも行います。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（環境）	
担当教員	木村 久美子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		

授業概要 幼児教育における「環境」は大変重要な部分を占めている。この「環境」の意味を十分に理解し把握した上で、実際の事例を参照または見学をする中から環境と子どもの関係を熟知し、保育者として具体的に何をどのようにすべきか等を討議したい。環境を構成したり、子どもの変化をとらえて保育内容を再構想したり、意図的に移行させたりすることが保育者として果たすべき役割となることを実践事例からくみ取り、実際の指導計画等も考えてみたい。

到達目標

- (1) 子どもたちの生活の実態から、子どもを取り巻く環境とはどんな状況や状態のことを示すのかをグループ討議しながら考えを深め、子どもにとっての環境についての基本的な考え方と領域「環境」の意味を理解することができます。
- (2) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境に関する記述部分を理解し、保育現場の具体的な実践事例を通して、環境の重要性を認識することができます。
- (3) 子どもや保育者を取り巻く環境の実態から、具体的な保育の展開や方法をグループ討議し、取り巻く環境の実態に自ら気づき、その実態に合った効果的な保育内容や保育方法が構築できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 保育と環境
- 02 領域「環境」のとらえ方と考え方（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連）
- 03 保育環境の構成
- 04 友だちや保育者とともに育つ人的環
- 05 豊かな生活を育む環境を創る物的環
- 06 生き物や植物等の自然の事象に関心をもつ自然環境
- 07 自分を取り巻く社会の文化に興味をもつ社会的環境
- 08 友だちとの遊びを広げながら育つ事例 視聴覚教材活用
- 09 異年齢との関りや保育者との相互の関りから育つ事例 視聴覚教材活用
- 10 遊びの展開を作り出せる室内環境の構成事例 視聴覚教材活用

- 11 育ちを支える魅力ある屋外環境の構成事例 視聴覚教材活用
- 12 生き物, 植物, 自然現象と関わる事例 視聴覚教材活用
- 13 生活と繋がる文字や数量, 標識等の関心を育てる事例 視聴覚教材活用
- 14 園外保育の意義と地域の異世代交流の事例 視聴覚教材活用
- 15 子どもの安全を確保するための環境構成の事例 視聴覚教材活用

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・保育に関わる報道に常に関心を抱き,新聞記事等も保管すると同時に自分なりの考えや疑問を書きとめておく。(随時)
- ・既習で得た知識や身に付けた技術さらに教育実習を通しての経験を基に,環境を通した保育とは具体的にどんなことなのか, 自分の考えをまとめておく。(1時間)

【事後学修】

- ・保育者を目指す者として, 保育者の資質向上のための向上心をもって授業内でまとめた小レポートの再考と実践事例から学んだことを自分なりにまとめておく。(1時間)

評価方法	・ 授業への取り組み	20%
	・ 提出物	30%
	・ 定期試験	50%

アクティブ
ラーニング

- ・ 報道記事や実践事例をもとにグループディスカッションを実施。
- ・ 視聴覚教材における子どもや保育者の動きと環境の関りを観察し,保育者としての次の働き掛けや環境の再構想についてグループディスカッションを実施。
- ・ グループディスカッション後自分の経験や考えと関連させて振り返りをする
- ・ 授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめ,発表する。

フィード
バック

- ・ グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に,保育に対しての自分の考えが深まったり,違った視点の発見や視野が広がるような聞き方を課す。
- ・ 小レポートについては, 必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却する。

実務経験

○ 小中学校や幼稚園または認定園の勤務経験を活かし,さらに附属園に勤務していた時の実践をまとめた資料に基づき,環境を通した保育とはどう在るべきかまでを自分の考えとしてまとめられる力を獲得させたい。保育者としての資質向上を目指そうとする姿勢が養えるようにしたい。

教科書 保育内容「環境」 秋田喜代美 (株) みらい

参考書

- ・ 保育所保育指針 厚生労働省
- ・ 幼稚園教育要領 文部科学省
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・ 認定こども園大成学園幼稚園令和元年度研究紀要
- ・ 認定こども園大成学園幼稚園令和元年度研究紀要 別冊 指導計画集

備考 グループディスカッションに,積極的に参加するには自分の考えを常にもっていることが重要なので,新聞やテレビその他からの幼児教育に関する情報については,関心をもってほしい。また幼児教育書の紹介もするので,積極的に活用し, 保育者としての資質を向上させてほしい。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（言葉）		
担当教員	綿引 喜恵子					
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）			

授業概要 乳児及び幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針、・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。また、実務経験を生かし乳児及び幼児の発達に即して、アクティブラーニングの技法を取り入れ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

到達目標

- 1 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力が習得できます。
- 2 言葉遊びなど言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付け、乳児及び幼児の発達における児童文化財（絵本、紙芝居等）について理解し説明することができます。
- 3 領域「言葉」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができます。
- 4 指導案の構造を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することができます。
- 5 領域「言葉」において乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりが理解できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身に付け、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 乳児及び幼児教育の基本
- 02 乳幼児期の言葉の発達
- 03 領域「言葉」について（DVD視聴後、ディスカッションする）
- 04 領域「言葉」のねらいと内容
- 05 子どもの発達過程と言語の獲得
- 06 言葉によるコミュニケーション（ロールプレイ）
- 07 幼児の言葉遊び・文字遊び（映像を基に指導計画を検討、教材研究する）
- 08 幼児の言葉遊び・文字遊び（指導案を作成、模擬保育、振り返り）
- 09 幼児と紙芝居（創作紙芝居を作成、模擬保育、振り返り）
- 10 幼児と絵本（情報機器の活用法を理解し、保育の構想に活用）

- 11 絵本の読み聞かせの実践
- 12 生活や遊びを通しての言葉の育み
- 13 言葉への興味や関心を育てる環境
- 14 協同的経験をするととは（言葉に遅れのある子への関わり）
- 15 小学校への接続に向けて（アプローチ・スタートカリキュラム）まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 その回のテーマの分からない用語等調べる。(約1時間)

【事後学修】

配布資料について復習すると共に、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(約1時間)

評価方法 1 授業への取り組み20% 2 課題への取り組み20% 3 定期試験60%

アクティブ ラーニング グループディスカッション 映像活用学習 クリエイティブ・セッション

フィードバック 提出レポート、指導案には、教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 幼稚園（副園長）で勤務していた実務経験を活かし、幼児の発達に添った関わり方について実践的な授業を行う。

教科書 授業で使用する資料については、すべて配布します。

参考書 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 ISBN978-4-577-81448-2
 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 ISBN978-4-577-81449-9
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館ISBN978-4-577-81449-9

備考 グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。自分で考えた意見や思いが言えるようにし、他のメンバーの意見を真摯に受け止め、再度考えて自分の意見を確かなものにすることを求めます。
 授業内のレポートや指導計画について、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24231		科目名	保育内容演習（表現）	
担当教員	富田 浩子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		

授業概要 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育、教育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容並びに全体構造を理解します。また、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域『表現』に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得し身に付けます。

到達目標 (1)乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解することができます。(2)領域『表現』の特性及び幼児の体験と関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができます。(3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができます。(4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けます。(5)領域『表現』の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション及び幼稚園、保育所、認定こども園における『表現』
- 02 視聴覚教材を用いた子どもの表現活動の発達と特徴
- 03 『表現』を育てる環境
- 04 表現を育てる保育者の指導・援助
～0、1、2歳児の援助の仕方～
- 05 表現を育てる保育者の指導・援助
～3、4、5歳児の援助の仕方～
- 06 乳幼児期の発達と領域「表現」について
- 07 事例や映像を通して、乳幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点について
- 08 生活の中にある物を活用した表現表現の実践及び活動の特徴や面白さ、留意点などのグループディスカッション
- 09 身近な素材を用いた、総合的な表現活動の実践及び活動の特徴や面白さ、留意点などのグループディスカッション
- 10 年齢による表現活動や遊びを広げるための言葉かけと教材研究
- 11 一人一人の特性に応じた指導と、インクルーシブ保育における表現活動の可能性について
- 12 表現活動の指導案に沿った模擬保育の実践

- 13 乳幼児造形表現教育の広がりについて
～小学校との接続と連携・美術館と保育現場の連携～
- 14 美しさを経験し、美しさを表現する保育について
- 15 領域『表現』をめぐる現代的な課題・本講義の振り返り

授業時間 【事前学修】

外の学修 乳幼児の表現活動を考えノートにまとめる。(約1時間)

【事後学修】

グループワークで学んだ表現活動をノートにまとめる。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み 60% レポート及び課題への取り組み 40%
レポートの評価基準：1.字数や提出期限を守ることができている(10%)2.脱字がなく、表現が適切である(10%)
3.内容がテーマに即して適切である(20%)4.子どもの内面に育つ表現が具体的に理解できている(30%) 5.乳幼児期の発達が、正しく論理的に展開されている(30%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション 映像活用学修 製作

フィードバック 授業内レポートや発表について、その都度、フィードバックを行う。

実務経験 ○ 保育所、幼稚園に勤務していた実務経験を活かし、現場の具体的な事例を示しながら授業を行う。

教科書 なし(適宜資料を配付)

参考書 保育所保育指針解説書(厚生労働省 フレーベル館) 幼稚園教育要領解説(文部科学省 フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府 他 フレーベル館)

備考

ナンバリング	25262		科目名	子どもの健康と安全	
担当教員	秋山 緑				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☒ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における健康及び安全の管理、子どもの発達や体調不良等の状態に即した適切な対応について具体的に理解する授業です。また、健康や安全管理の計画や評価、組織的取組について具体的に理解する授業です。				
到達目標	(1)子どもの体調不良やけが等について適切な対応を行うことができます。(2)保育における適切な健康や安全の管理ができます。(3)健康や安全の管理のための関係諸機関との連携について説明できます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 授業の概略と到達目標についておよび子どもの健康と保育環境
演習：バイタルサインの測定
- 02 保育における衛生管理
演習：嘔吐物の適切な処理の仕方
- 03 子どもの事故防止および安全対策
演習：保育実習中のけが（グループディスカッション）
- 04 危機管理と災害への備え(1)
演習：危険予知訓練シート(グループディスカッション)
- 05 危機管理と災害への備え(2)
演習：幼児視野体験
- 06 体調不良が発生した場合の対応と応急処置
演習：手当での仕方(ロールプレイ)
- 07 傷害が発生した場合の対応と応急処置
演習：手当での仕方(ロールプレイ)
- 08 救急処置および心肺蘇生法(1)
演習：心肺蘇生法
- 09 救急処置と心肺蘇生法(2)
演習：エピペンの使い方

10	感染症の予防と感染症発生時の対応 演習：感染症発生時の保健だより作成
11	3歳未満児への対応 演習：抱き方、おんぶの仕方、食事の与え方、口腔内の衛生、衣服の着脱、排泄のさせ方、沐浴・入浴のさせ方
12	個別的な配慮を要する子どもや障害をもつ子どもへの対応 演習：アレルギー疾患をもつ子どもへの対応
13	保育における沽券活動の計画および評価 演習：保健計画の作成
14	保育活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携 演習：虐待が疑われる場合のケース会議（ロールプレイ）
15	課題発表
授業時間	【事前学修】
外の学修	次回の授業内容を教科書で確認し、その内容について、実習中自分が見たり行ったりしたことをプリントにまとめる。(約1時間) 【事後学修】 状業で行った演習について、その手技や注意点をプリントにまとめる。さらに、授業の中で興味があった内容について各自調べプリントにまとめる。(約1時間)
評価方法	(1)授業への取り組み・提出プリント(50%) (2)定期試験(50%) 15回の授業の後定期試験を実施する。
アクティブラーニング	グループディスカッション、ロールプレイ、ケースメソッド
フィードバック	授業ごとに提出してもらおうと提出プリントに、コメントや評価を記入して返却します。
実務経験	○ 養護教諭として公立小中学校に勤務していた実務経験を活かし、子どもの健康面安全面の指導や管理について実践的な授業を行います。
教科書	授業で現場で役に立つ 子どもの健康と安全演習ノート 小林美由紀編著 診断と治療社 ISBN978-4-7878-2406-6
参考書	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省） 「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省） 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）
備考	

ナンバリング	26241		科目名	特別支援教育の基礎	
担当教員	梶井 正紀				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☒ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☒ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 本講義では、障害児に関する基礎的・基本的な知識を習得し、障害児保育の実践的な方法を学びます。また、インクルーシブ教育システムにおける障害児保育がいかなるものなのかを学びます。講義形態としてグループディスカッションなどを取り入れたり、レポート等を発表したりして支援方法を検討していきます。

到達目標

1. 障害児に関する知識や支援方法を身につけることができます。
2. 障害のある子をもつ親への向き合い方、保護者理解を深めるための方法を学ぶことができます。
3. 特別支援教育に関する原理・制度・歴史を理解し、今日のインクルーシブ保育・教育について説明することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 特別支援教育・障害児保育について
- 02 障害の概念について
- 03 障害児保育の基礎・基本について
- 04 肢体不自由児のある子どもについて
- 05 視覚障害のある子どもについて
- 06 聴覚障害・言語障害のある子どもについて
- 07 知的障害のある子どもについて
- 08 発達障害LD、ADHD、高機能自閉症のある子どもについて
- 09 病弱・身体虚弱の子どもの支援方法について
- 10 障害児に関する理解と支援方法
- 11 個別の移行支援計画について
- 12 合理的配慮について
- 13 個別の移行支援計画の作成
- 14 戦前の歴史・制度について
- 15 戦後の歴史・制度について

- 16 近年の制度について
- 17 小学校との連携の図り方について
- 18 小学校との連携の図り方について
- 19 障害のある子の保幼小連携とポイントについて
- 20 保健・医療の現状と課題について
- 21 医療機関の役割について
- 22 保育所保育指針・幼稚園教育要領と外部の専門機関との連携
- 23 インクルーシブ保育・教育について
- 24 園内・施設内の連携のあり方について
- 25 園内・施設内の連携のあり方について
- 26 関係者（専門家）との連携について
- 27 障害のある幼児の保護者との向き合い方について
- 28 保護者支援について
- 29 今後の障害児保育の可能性について
- 30 まとめと振り返り

授業時間 【事前学修】

外の学修 講義前にテキストの該当する章を読み、分からないごくを調べる。また、特別支援教育や障害児に関連するニュースや新聞記事をノートにまとめておく。（約1時間）

【事後学修】

障害児に関係する講義内容について友人等とディスカッションを行い、自分の意見をノートに整理する。（約1時間）

評価方法 レポート50%、ミニレポート50%
 レポート等の評価基準
 1 誤字脱字がなく、内容が分かりやすい（50%）
 2 内容がテーマに沿っており論述的である（40%）
 3 専門用語を解説し、理解している（10%）

アクティブ ペア・グループワーク、映像活用学習
 ラーニング

フィード ミニレポートには評価とコメントをつけて返却します。
 バック

実務経験 ○ 教育支援委員（専門委員）や通常学校の特別支援教育コーディネーターの実務経験を活かし、特別支援教育に関する実践的な授業を行う。

教科書 井村圭壯・相澤譲治編著 2016年 『現代の障がい児保育』 勁草書房（ISBN978-4-7620-2586-0）

参考書 必要に応じて講義内で紹介します。

備考 ノートもしくはプリントをきちんと整理し、自分の考えを整理しておくこと。

ナンバリング	25221		科目名	社会的養護II	
担当教員	安藤 みゆき				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 児童養護施設、乳児院、里親などでの子どもの生活や支援の実践について説明します。映像や報道資料、施設実習の各自の体験をもとに、ディスカッションをして考察を深めてゆきます。また、保育士が子どもたちの生活を支え、健全な発達を保障し、自立を支援するために必要なことは何かを学びます。さらに、子どもの養育における親以外の大人（保育士等）の役割、社会の果たすべき責任、社会的養護の現状の課題と展望についても学びます。

到達目標 (1) 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明することができます。(2) 施設養護及び家庭養護の実践について説明することができます。(3) 社会的養護に関わる相談援助の方法と・技術について理解することができます。(4) 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について説明することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション及び前期の社会的養護のまとめ
- 02 社会的養護における子どもの理解
- 03 社会的養護における子どもの日常生活支援について
グループディスカッション
- 04 社会的養護における治療的支援について
グループディスカッション
- 05 社会的養護における自立支援
- 06 施設養護の生活特性及び実際 (1) 乳児院
- 07 施設養護の生活特性及び実際 (2) 児童養護施設
- 08 施設養護の生活特性及び実際 (3) 児童心理治療施設、児童自立支援施設
- 09 家庭養護の生活特性及び実際
- 10 社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成
- 11 社会的養護における記録及び自己評価

- 12 社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 ロールプレイ及びディスカッション
- 13 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 ロールプレイ及びディスカッション
- 14 今後の課題 (1) 社会的養護における家庭支援
- 15 今後の課題 (2) 社会的養護の課題と展望

授業時間 【事前学修】

外の学修 子ども虐待、児童養護施設、乳児院等の報道に興味関心を持ち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめておくようにしてください。また、児童養護施設などの社会的養護に関するドラマや映画やアニメなどについて、どのように施設や里親家庭に暮らす子どもたちを描いているのかを分析しておいてください。
(約1時間)

【事後学修】

授業内容について友人や家族とディスカッションをして自分の意見を述べるができるようにしてください。
(約1時間)

評価方法 定期試験60%提出物(レポート・ノート) 30%。授業中の発言内容など10%。
レポートの評価基準：1. 字数や提出期限を守ることができている(10%) 2. 誤字脱字がなく、表現が適切である(10%) 3. 内容がテーマに即して適切である(30%) 4. 論理的にわかりやすく展開されている(20%) 5. 課題の考察が充分である(30%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション、ロールプレイ

フィードバック 提出ノートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 児童心理治療施設で勤務していた実務経験を活かし、社会的養護について実践的な授業を行う。

教科書 授業で使用する資料については、すべて配布します。

参考書 夾竹桃ジン「ちいさいひと 青葉児童相談所物語」小学館 早川悟司他「子どもの未来をあきらめない 施設で育った子どもの自立支援」明石書店

備考 ノートには、コメント欄を作成し、毎回必ずその授業のトピックスについてのコメント(意見、感想、質問)を記入してください。ノート提出の際に教員のコメントを記入して返却します。グループディスカッションや演習を取り入れた授業を行いますので積極的に参加することを求めます。

ナンバリング	25281		科目名	子育て支援	
担当教員	木村 久美子				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☒ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 これまでの日本の子育て支援政策の流れを理解し、今後ますます社会全体で子育てを支援していく重要性が増すことを認識したい。園が「子育て」と「親育ち」を支援していくこと、さらに「子どもの育ち」と「親の子育て」をともに支援していくことが保育者の役割であることを事例を通して考え、保育者として具体的かつ多様な支援内容や方法を学ぶ。

到達目標

- (1) 現代社会状況の変化による子育て支援の必要性を理解することで、保育者に期待されている子育て支援について認識することができます。
- (2) 子育て支援の現状と課題を確認し、子育て支援の意義を理解して、専門性を背景としたこれからの子育て支援の在り方を討議することで、保育者としての役割の認識を深めることができます。
- (3) 現場の実態例や実践事例を通して、その特性や展開を具体的に理解し、場に応じた子育て支援計画や支援内容の立案を具体的に実施し、実践力を身に付けることができます。
- (4) 社会環境の変化による多様なニーズの具体的な子育て支援計画や支援内容をグループ討議することで、園・保護者・地域等が一体となった子育て支援の仕組みの構築を目指す態度や姿勢を身に付けることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 子どもの育ちの危機と子育て支援の現状
- 02 子育て支援政策の変遷
- 03 保育施設等における子育て支援 視聴覚教材活用
- 04 子どもの保育と保護者支援 (1)子ども及び保護者の状況把握
- 05 子どもの保育と保護者支援 (2)保護者との相互理解と信頼関係
- 06 支援計画と環境構成
- 07 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
- 08 子育て支援のための園内体制づくり 視聴覚教材活用
- 09 子育て支援のための地域専門機関との連携・協働
- 10 地域の子育て家庭に対する支援
- 11 障害のある子どもとその家庭に対する支援 視聴覚教材活用

- 12 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援
- 13 子ども虐待の予防と対応
- 14 要保護児童等の家庭に対する支援
- 15 多様な支援ニーズをかかえる家庭に対する支援

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・保育に関わる報道に常に関心を抱き,新聞記事等も保管すると同時に自分なりの考えや疑問を書きとめておく。
- ・既習で得た知識や身に付けた技術さらに教育実習をととしての経験を基に,保育者としての期待されている役割について自分の考えをまとめておく。(1時間)

【事後学修】

- ・保育施設等が担う子育て支援と他の機関の子育て支援の連携の充実を目指すためには,一人の保育者として,今後どんな視点が必要になるか授業内でまとめた小レポートから再考する。(1時間)

評価方法	・授業への取り組み	20%
	・提出物	30%
	・定期試験	50%

アクティブ ラーニング	・報道記事や実践事例, 実習のときの体験をもとにグループディスカッションを実施 ・ワークショップ後自分の考えが深まったかどうかまたは新しい発見があったか振り返りをする ・授業内にキーワードを挙げそれについての自分の考えを小レポートにまとめるキーワードレポートを実施
----------------	--

フィード バック	・グループディスカッション後のグループ発表を相互に聞く際に,保育に対しての自分の考えが深まったり,違った視点の発見や視野が広がるような聴き方を課し, 学びの深まりをまとめる。 ・小レポートについては, 必ず内省できるような教員のコメントを記入し返却する。
-------------	--

実務経験	○ 小中学校や幼稚園, 認定園勤務経験, 那珂市の子育て支援状況も知ることができる組織役職も兼ねていることから,幼児教育の重要性と多様な家庭の支援について,現場の実態を通して,幅広い子育て支援についての習得を目指したい。「子育て支援」を保育施設等の一員としてばかりでなく, 社会全体の大人の責務として認識できるようにしたい。
------	--

教科書	子育て支援 西村 重稀 中央法規
-----	------------------

参考書	保育所保育指針 厚生労働省 幼稚園教育要領 文部科学省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省
-----	--

備考	既習内容が重複するところも多いし, 今までの習得した技術や実践力さらに実習で体験してきたことが十分に生かされることが期待される授業内容である。保育者を目指す者にとっては終盤の時期であるので, 積極的に自分の体験や考えを堂々と発言することを望む。また他者の考えも受容するという姿勢も養いたい。
----	---

ナンバリング	24232		科目名	教育の方法と教育メディア	
担当教員	佐藤 隆				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☒ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 情報コミュニケーション技術の急速な発達には、教育方法に大きな影響を与えています。しかし、保育所や幼稚園、小・中学校において教育メディアの利用はコンピュータのみならず伝統的なメディア等を組み合わせて実践することでその目的を達成させています。授業では伝統的な視聴覚教材と情報・技術利用について体系的に学ぶとともに、メディアリテラシー教育を進め、諸活動における適切なメディアの選択や活用を図るなど考察し実践につなげます。

到達目標 (1)保育・教育活動において、適切な視聴覚メディアを選択・制作・活用できる基礎的な知識を身につけます。
(2)保育・教育活動における活用場面を考えることができるとともに必要な教育の方法、教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (教育メディアとは)
- 02 教育メディアの種類・特徴とその選択
- 03 教育メディアとしての環境構成
- 04 メディアの功罪
- 05 教育メディアとしての静止画・動画
- 06 メディアについての教育
- 07 教育メディアとしての新聞の活用 (新聞を“読む”)
- 08 教育メディアとしての新聞 (新聞のつくりと特徴)
- 09 教育メディアの効果的な「見せ方」・「演じ方」
- 10 絵本をめぐる話と読み聞かせ
- 11 “ストーリー”の組み立て方
- 12 メディアによる社会や人への影響
- 13 教育の情報化 (ICTと教育)

14 教育メディアとしての「展示」（博物館から学ぶ）

15 教育メディアの可能性

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、教科書の授業内容に関する部分を探してよく読むとともに、内容について調べてください。（約2時間）

【事後学修】

教科書や授業で配布する資料をもとに、授業で学んだ内容について、さらに深く調べ、知識や考えを広げ深めてください。（約2時間）

評価方法 授業への取組(30%) 提出物及び課題レポート(50%), 定期試験 (20%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション ワークショップ

フィードバック 提出レポートに教員のコメントを記入して返却します。質問や疑問を取り上げ、個別に対応するとともに必要に応じて全体にフィードバックします。

実務経験 ○ 小学校・中学校でのICT教育の実務経験を生かし、メディア教育の大切さと多様な指導法についてわかりやすく興味関心を高める授業を展開します。

教科書 改訂 視聴覚メディアと教育 佐賀啓男編著 樹村房 ISBN978-4-88367-191-5

参考書 授業中に適宜資料を配付する。

備考 様々なメディアを幅広く取り上げ、教育における活用の可能性を検討します。話し合い活動が多くなります。積極的に発言してください。

ナンバリング	25232		科目名	保育指導法	
担当教員	加茂川 くるみ				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☒ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 「保育指導法」は、「人間関係」「環境」「言葉」などの領域ごとに学ぶ保育内容を統合し、総合的に関連づけて理解するための科目です。保育の在り方の本質を探りながら状況に応じて目の前の子どもにもふさわしいかわりをするための方法について学んでいきます。保育所保育指針等、保育内容に関する基準を把握し、子どもの成長・発達・筋道について理解できるようにします。そして、保育の営みの深さ、尊さを学ぶとともに、身近な事例に対するグループ・ディスカッションを通して、各自がそれぞれ、自分自身の問題として捉えられるようになります。

到達目標

- (1) 幼児期の発達の特性について理解し、発達の実情に応じた指導法を学び自分なりに説明ができるようになります。
- (2) 子ども理解に基づいた指導法の理解を深め、主体的な活動を支える保育者としての役割が理解できるようになります。
- (3) 保育の実践にあたり知識だけでなく、自分で判断する力を養うとともにさらに子ども理解のために深く身に付けることができます身に付けることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス：保育方法とは何か
- 02 保育指導法を学ぶ意義について
- 03 子ども理解にもとづいた保育方法と評価
養護的な関わり
遊びが学びになる保育方法のために
- 04 子どもにとってふさわしい園生活を考える
子どもの実態に即した柔軟な保育形態
- 05 養護と教育が一体となった保育の方法
教育とは
養護と教育が一体となった教育とは
- 06 環境を通した保育の方法
なぜ「環境を通した保育」なのか

- 07 遊びを通した保育の方法
子どもが遊ぶということ
- 08 個と集団をいかした保育の方法について
保育における個と集団
- 09 0・1・2歳児の発達に応じた保育方法
- 10 3・4・5歳児の発達に応じた保育方法
- 11 保育の計画・実践・評価
- 12 家庭・地域と連携した保育
- 13 小学校との接続のデザイン
スタートカリキュラム
遊びと学びの関係
- 14 配慮を要する子どもへの保育方法 インクルーシブな保育の実現
(1)気になる子どもへの保育
(2)外国とかかわりのある子どもの場合
- 15 情報機器を活かした保育方法
保育指導の方法についてのまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 教科書を事前に読んでおき、わからない語句などを調べておく。保育に関するニュース等に関心をもち、新聞記事等の切り抜きをノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

授業のまとめを行う。その際、子どもの指導法について、自分の考えをまとめておく。学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 (1)授業への取り組み(30%) (2)定期試験(40%) (3)リアクションペーパー等の提出物(30%)

**アクティブ
ラーニング** グループディスカッション 映像活用学習

**フィード
バック** 提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。

実務経験

教科書 大豆生田啓友・渡辺英則 編著(2020)『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房

参考書 内閣府 文部科学省 厚生労働省(2015)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

備考 筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール		
担当教員	安藤 みゆき					
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 児童相談所や児童養護施設等の見学や施設職員との懇談等を通して、社会的養護について実践的に学びます。この授業のグループワークでは、協調性やコミュニケーション能力を磨き、弾力性のあるポジティブな思考スタイルを身に付けることを目指します。発達心理学について学び、保育者として心の安定した子どもの養育について考察します。卒業研究の活動を通して、保育における今日的課題について各自の考えを深めてゆきます。

到達目標 (1) 児童養護施設のボランティア、施設見学により、視野を広げることができます。(2) 保育における今日的課題について多様な視点から考察できる能力を身に付けることができます。(3) 施設に就職している先輩との懇談や施設見学を通して、実習の不安を軽減し、意欲的に実習に取り組むことができます。(4) 卒業研究を通して、自分の考えを人に伝える情熱とスキルを身に付けることができます。(5) 子ども虐待や発達障害の子どもたちの支援について理解することができます。(6) ゼミ活動を通じて、自己理解、他者理解を深め、社会人としての協調性、コミュニケーション能力を身に付けることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身に付け、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ゼミナールのオリエンテーション、児童養護施設のボランティアの事前説明
- 02 児童養護施設の行事のボランティア
- 03 児童養護施設の行事のボランティアの振り返り
- 04 児童養護施設や乳児院で働く先輩とのディスカッション
- 05 エンカウンターエクササイズ
- 06 交流分析について
- 07 東大式エゴグラムによる自己分析と振り返り
- 08 レジリエンスについて
- 09 レジリエンス概念における逆境について
- 10 レジリエンス研究の動向について
- 11 子どもの発達における重要な他者について
- 12 児童相談所等の見学
- 13 こども発達相談センター等の見学

- 14 卒業研究のテーマの検討（個別面談）
- 15 卒業研究の組み立て方
- 16 卒業研究プレゼンテーションのデモンストレーション
- 17 卒業研究の文献収集やアンケート実施方法について
- 18 卒業研究のスライド作成
- 19 卒業研究の発表（発表の順番を決め、1番から2番の学生がパワーポイントでプレゼンテーションを行い、ディスカッションをする）
- 20 卒業研究の発表（3番から4番の学生がパワーポイントでプレゼンテーションを行い、その後ディスカッションをする）
- 21 卒業研究の発表とディスカッション（5番から6番目の学生）
- 22 卒業研究の発表とディスカッション（7番から8番の学生）
- 23 卒業研究の発表とディスカッション（9番から10番の学生）
- 24 卒業研究の振り返り
- 25 子どもが虐待と発達障害について
- 26 エンカウンターエクササイズによる自己理解と他者理解について
- 27 弾力性のある柔軟なポジティブな思考スタイルについて
- 28 アタッチメントについて
- 29 東大式エゴグラムによる2回目の自己分析と振り返り
- 30 ゼミナール全体のまとめ（獲得した保育観についての意見交換）

授業時間 【事前学修】

外の学修 卒業研究に向けて、各自のテーマにそった資料を収集したり、アンケートやフィールドワークを行い、発表スライドを作成してください。（約1時間）

【事後学修】

ゼミナールで配布された資料をよく読んでおいてください。ゼミナールで学んだ内容について友人や家族とディスカッションをして、自分の意見を述べるができるようにしてください。（約1時間）

評価方法 授業中の発言内容25%、見学、ボランティア等の積極性25%、卒業研究50%

アクティブ ラーニング グループディスカッション

フィードバック 卒業研究の発表においては、その都度個別のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 児童福祉施設（児童心理治療施設）での勤務経験を活かし、実践的なゼミナールを展開します。

教科書 必要に応じて配布します。

参考書 「あらゆる学問は保育につながる」 秋田喜代子監修 東京大学出版会

備考 施設見学等、授業時間外の活動もあります。自主的に自分の課題に取り組む姿勢を期待します。グループディスカッションでは、自分で考えて発信し、他のメンバーの意見を聴き、もう一度考えて自分の考えや意見を確かなものにすることを求めます。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール	
担当教員	佐藤 隆				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 未来を担う子どもを育てる保育者として、SDGsについて理解を深めます。持続可能な社会づくりのために、私たちにできることを考え実践します。さらに保育現場において実現可能なSDGsの取り組みを考え、提案することを目指します。「地球市民」としての自覚を高めるとともに、よりよい社会づくりに積極的に参画し貢献できる資質を高め、保育現場で活かし実践する姿勢を身につけます。

到達目標 SDGsについて理解が深まり、社会をつくる一員としての自覚と意欲を高めることができます。保育現場や地域でフィールドワークを行うことにより、社会や保育現場の現状の理解が深まり、今後目指すべき方向を考察することができます。保育現場においてSDGsの取り組みを推進したり、子どもたちにSDGsについて教えたりする実践力を身につけることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (ゼミナールの目的)
- 02 SDGsとは (基礎から学ぶ)
- 03 SDGs17の目標に係る取り組みを調べる
(世界で・日本の社会で・大学や学校で・保育現場で)
- 04 SDGsの17の目標に係る取り組み (調べたことの発表・共有)
- 05 フィールドワーク① (身近な地域のSDGsに係る取り組み巡検)
- 06 フィールドワーク①のまとめ
- 07 保育現場におけるSDGsの取り組み事例を調べる
- 08 フィールドワーク② (保育現場の視察)
- 09 フィールドワーク②のまとめ (「保育現場でできるSDGsの取り組み」を考える)
- 10 「保育現場でできるSDGsの取り組み」立案その1及び計画作成
- 11 「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践の準備 (創作活動)
- 12 「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践の準備 (提案資料作成)
- 13 フィールドワーク③ (保育現場訪問による提案)
- 14 フィールドワーク③のまとめ (改善の方向性検討)

- 15 夏休み及び後期の活動に向けて（前期の活動の振り返りによる課題の明確化，後期の活動計画立案）
- 16 外部講師による講話（実践者の取り組みの体験を聞く）
- 17 「保育現場でできるSDGsの取り組み」立案その2及び計画作成
もしくは案その1の見直し・修正
- 18 「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践の準備（創作活動）
- 19 「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践の準備（打合せ・練習等）
- 20 フィールドワーク④（「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践）
- 21 フィールドワーク④のまとめ（成果と課題の検証）
- 22 フィールドワーク⑤（「保育現場でできるSDGsの取り組み」実践）
- 23 フィールドワーク⑤のまとめ（成果と課題の検証）
- 24 実践活動報告レポート作成に向けて（1年間の活動の成果のまとめ・資料の整理）
- 25 実践活動報告レポート作成（構想・材料収集・作業）
- 26 実践活動報告レポート作成（完成）
- 27 実践活動報告プレゼンテーション作成（構想・作業）
- 28 実践活動報告プレゼンテーション作成（完成）
- 29 実践活動報告発表会
- 30 1年間の活動の振り返り（成果の確認と共有）

授業時間 【事前学修】

外の学修 常に新聞やネット、テレビ等を見て、さらに自分で地域社会の状況を見ることにより、SDGsに係る問題を探し、問題の原因、現状、解決策を調べ、自分でも考え、密に記録をしてください。

【事後学修】

毎時間の学びの成果を振り返り、次に行うべきこと、探究すべきことを考えてください。また、考えた事柄について調べ、次の授業（活動）への道筋（どうつながるか・活かすか）を考えてください。

評価方法 授業の取り組み（50％）課題や研究に取り組む姿勢（20％）実践的な取り組み及びその内容（30％）

アクティブ
ラーニング グループディスカッション 共同体験活動

フィード
バック きめ細かく個別指導を行いながらグループディスカッションや共同体験活動を取り入れ、相互の学び合いを重視する。学びの成果を全体で共有できるようにする。

実務経験 ○ 幼稚園,小学校,中学校における実務経験を活かし、保育者に求められる自ら課題を発見し解決する能力を高められるよう実践的な授業を行う。

教科書 必要に応じて資料を配布

参考書 必要に応じて文献を紹介

備考 フィールドワークや個別（グループ）研究を行うことにより、正規の授業時間以外でも活動を行うことがあります。探究意欲，自覚，責任をもって，自ら活動に取り組めるようにしてください。自ら意志をもって学ぶことを大切にしてください。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール	
担当教員	国府田 はるか				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 身体を用いた多様な活動や経験を通して学生自身が豊かな感性を磨くとともに、表現活動によって心身がどのように変化していくのかについて、理論と実践の両面から考察していきます。また、幼児教育・保育現場や子育て支援の場において身体表現ワークショップの計画・実施・省察を行うことで、保育者として求められる表現力や実践力を養います。この授業では、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標 幼児教育・保育現場や子育て支援の場における身体表現の在り方について理解し、自身の表現力や実践力を高めることができます。
生き生きと豊かに表現することのできる身体表現を修得し、子どもの表現を心とからだ全体で感受し共感し促し広げることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (1)ゼミナールの目的 (2)年間活動計画
- 02 幼児期における身体表現 (1)身体表現の実際 (2)援助・指導の方法
- 03 乳児期における身体表現 (1)身体表現の実際 (2)援助・指導の方法
- 04 身体表現ワークショップ1回目に向けての計画・ディスカッション
- 05 身体表現ワークショップ1回目に向けての準備・環境設定
- 06 身体表現ワークショップ1回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ
- 07 身体表現ワークショップ1回目 (3・4歳児)
- 08 身体表現ワークショップ1回目の振り返り・省察・エピソード記録
- 09 身体表現ワークショップ2回目に向けての計画・ディスカッション
- 10 身体表現ワークショップ2回目に向けての準備・環境設定
- 11 身体表現ワークショップ2回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ
- 12 身体表現ワークショップ2回目 (1・2歳児)
- 13 身体表現ワークショップ2回目の振り返り・省察・エピソード記録
- 14 校外学習 (1)舞台鑑賞 (2)表現手法への理解

- 15 半年間のまとめ (1)身体活動の振り返り (2)実習への抱負
- 16 各実習後のまとめ (1)新たな課題と自己評価 (2)研究テーマとの関連
- 17 身体表現ワークショップ3回目に向けての計画・ディスカッション
- 18 身体表現ワークショップ3回目に向けての準備・環境設定
- 19 身体表現ワークショップ3回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ
- 20 身体表現ワークショップ3回目(子育て支援)
- 21 身体表現ワークショップ3回目の振り返り・省察・エピソード記録
- 22 身体表現ワークショップ4回目に向けての計画・ディスカッション
- 23 身体表現ワークショップ4回目に向けての準備・環境設定
- 24 身体表現ワークショップ4回目に向けてのリハーサル・ロールプレイ
- 25 身体表現ワークショップ4回目(子育て支援)
- 26 身体表現ワークショップ4回目の振り返り・省察・エピソード記録
- 27 卒業レポート (1)課題の選定
- 28 卒業レポート (1)目的および方法
- 29 卒業レポート (1)結果および考察
- 30 まとめ (1)振り返り

授業時間 【事前学修】

外の学修 自身の研究課題を見いだし、日々の生活の中でそれらについて探求するように努めてください。ワークショップに際しては、主担当を中心にリハーサルを行ってください。

【事後学修】

ワークショップ後には、省察をもとに次回への課題を見いだし、学修への意欲に結びつけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、心を動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします

評価方法 授業への取り組み(30%)、ワークショップへの姿勢(40%)、卒業レポート(30%)等によって総合的に評価します。
レポートの評価基準 (1)字数や提出期限を守ることができている (20%) (2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%) (3)内容がテーマに即して適切である(30%) (4)考察が充分である(30%)

アクティブ ラーニング グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション

フィードバック 本授業では各回のエピソード記録や卒業レポートに関し、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。

実務経験

教科書 「保育内容 表現 からだからはじまる保育のアートー創造と表現がつながってあふれるー」 西洋子・本山 益子・岡本雅子 編著、2018、市村出版

参考書 小冊子「からだであそぼう！現場ですぐに使える運動・表現あそび」国府田はるか、2020
その他、テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。

備考 実技、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の意見や表現を受け入れ共感するとともに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール		
担当教員	馬立 明美					
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 音楽の力や効果を学び、音やリズムを奏でたり合わせたりする楽しさを味わいます。
 幼児・児童施設等での音楽活動や、学内での2歳児親子音楽あそび（ポップ）を開催し、音楽を通して子どもと保護者とのかかわりを考察し実践します。

到達目標 (1)親子参加の音楽の楽しみ方を研究します。
 (2)親子音楽あそびを実施し、その効果について考察します。
 (3)音楽あそび実践までのプロセスが説明できます。
 (4)音楽あそびを通して保護者との関わり方を学びます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション、年間計画
- 02 子どもの音楽あそびについて 1 (1)歌唱、手遊び歌、伴奏法
- 03 子どもの音楽あそびについて 2 (2)楽器の種類や鳴らし方・身体運動
- 04 親子音楽活動について 子育て支援/保護者支援
- 05 子育て支援音楽活動 (1)計画 (2)指導案・プログラム作成
- 06 子育て支援音楽活動 (1)用具準備 (2)練習
- 07 子育て支援音楽活動 (ぬかっぱ) 実施
- 08 子育て支援音楽活動 (ぬかっぱ) 実施
- 09 子育て支援音楽活動 (1)振り返り (2)次回の準備
- 10 子育て支援音楽活動 (1)事前準備 (2)練習
- 11 子育て支援音楽活動 (1)教材準備 (2)練習
- 12 子育て支援音楽活動 (ぬかっぱ) 実施
- 13 子育て支援音楽活動 (ぬかっぱ) 実施
- 14 子育て支援音楽活動 振り返り
- 15 親子音楽あそび (1)事前準備 (2)練習

- 16 親子音楽あそび 準備（指導案・プログラム）用具作成
- 17 親子音楽あそび (1)事前準備 (2)練習（リハーサル）
- 18 親子音楽あそびポップ1回目 リハーサル 実施
- 19 親子音楽あそびポップ1回目 実施 振り返り
- 20 親子音楽あそび (1)事前準備 (2)練習
- 21 親子音楽あそびポップ2回目 リハーサル 実施
- 22 親子音楽あそびポップ2回目 実施 振り返り
- 23 親子音楽あそび (1)事前準備 (2)練習
- 24 親子音楽あそびポップ3回目 リハーサル 実施
- 25 親子音楽あそびポップ3回目 実施 振り返り
- 26 親子音楽あそび (1)事前準備 (2)練習
- 27 音楽あそびポップ4回目 リハーサル 実施
- 28 音楽あそび (1)事前準備 (2)練習
- 29 音楽あそびポップ5回目 リハーサル 実施
- 30 振り返りとまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 多くの歌（童謡・jポップなど）を覚えて歌っておいてください。また、家族や周りの人に好きな歌をリサーチしておいてください。子どもや保護者への挨拶、声かけの言葉を考えておきましょう。学修の目安は約1時間程度とする。

【事後学修】

音楽セッションをしっかりと振り返り、子どもの表情や行動を記録しておきましょう。学修の目安は約1時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み40%、ポップに取り組む姿勢40%、提出物（毎回のリアクションペーパー）20%

アクティブ ラーニング グループディスカッション クリエイティブセッション

フィードバック 音楽セッション後、その都度振り返り、互いのコメントを次回のセッションに繋げると共にリフレクションペーパーに書き残し、教員がコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 市民センター、保健センター、幼稚園での子育て支援を目的とした音楽あそびの経験を活かし実践的な授業を行う。

教科書 必要に応じてプリント等を配布

参考書 必要に応じてプリント等を配布

備考 ・音楽活動毎に提出してもらいリフレクションペーパーにコメントや評価を記入して返却します。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール	
担当教員	加茂川 くるみ				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 幼児期までに育ってほしい姿(7)自然との関わり・生命尊重に焦点をあて、子どもの自然や科学に対する好奇心について掘り下げ、保育者として幼児の好奇心や探究心を育ていけるような保育現場における実践力を高めることを目指します。科学施設への見学や幼児への実演などグループワークを取り入れることで実感をもって学んでいけることを目指します。

到達目標 (1)子どもの自然や科学に対する「好奇心」がどのように芽生え、育まれいくのか、自分自身も実体験しながら考えたり調べたりすることで、子どもの目を通した自然科学について気づきを広げます。(2)実際に科学施設を見学したりすることで、子どもが自然科学のもつ「不思議」や「面白さ」と出会えるような保育の環境作りにつなげることができます。(3)ワークショップ等でグループ相互に研究成果を発表したりディスカッションをすることにより、相互評価能力を向上させたり、実践的に役立つコミュニケーション能力を向上させることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション(1)ゼミナールの目的(2)年間活動の見通し
- 02 幼児期までに育ってほしい姿について
小学校教育との接続カリキュラムについて(7)自然との関わり・生命尊重について
- 03 教材研究の資料収集 (1)子どもが自然科学 (生き物) に興味関心をもつ絵本等について 感想や工夫について意見交換
- 04 教材研究の資料収集 (2)子どもが自然科学 (どうぶつ) に興味関心をもつ絵本等について 感想や工夫について意見交換
- 05 教材研究の資料収集 (3)子どもが自然科学に興味関心をもつ絵本や図鑑等について 感想や工夫についての意見交換
- 06 教材研究の資料収集 (4)子どもが自然科学 (環境問題) に興味関心をもつような資料や情報について 感想や意見交換
- 07 自己課題研究・テーマ検討と課題設定の理由
- 08 自己課題研究・ディスカッション 小グループにおけるテーマの紹介と意見交換会
- 09 自己課題研究・研究テーマの再検討・研究計画
- 10 自己課題研究・研究テーマ決定・研究計画
- 11 自己課題研究・研究テーマの発表・自己研究開始
- 12 グループワーク (実演) ・保育現場での実演共同活動の計画と準備

- 13 グループワーク（実演）・共同活動の展開と工夫
- 14 グループワーク・共同制作活動での実技体験 (1)役割演技（課題検討）
- 15 グループワーク・保育現場での体験学習 (2)保育園ボランティア（夏祭り出前実験参加）
- 16 自己課題研究・研究発表に向けての教材研究と準備1
- 17 自己課題研究・発表発表に向けての教材研究と準備2
- 18 自己課題研究・研究発表に向けての教材研究と準備3
- 19 現場体験（施設見学）と情報収集・科学施設の調査・見学場所の選定・見学計画
- 20 現場体験（施設見学）と情報収集・見学の実施
- 21 現場体験（施設見学）と情報収集・見学の記録と発表資料作成
- 22 現場体験（施設見学）と情報収集・発表会・意見交換会
- 23 現場体験から活かす・共同作品・実験Ⅰ
- 24 現場体験から活かす・共同作品・実験Ⅱ
- 25 自己課題研究・卒業レポートのついでの検討
- 26 自己課題研究・卒業レポート作成にあたっての理解
- 27 自己課題研究・卒業レポート作成・指導
- 28 自己課題研究・卒業レポート作成・指導
- 29 自己課題研究・卒業レポート作成・指導
- 30 卒業レポート発表 (1)各自研究発表 (2)1年間の振り返り (3)レポート提出

授業時間 【事前学修】

外の学修 身の回りの自然や科学の事象に目を向け、「不思議だ」と思う気持ちに敏感になってみましょう。子どもが面白そうだと心引かれるような実験を調べたり、考えたりしましょう。子どもが興味を持って見たり読んだりする絵本や図鑑を調べてみましょう。科学施設の情報を積極的に集めましょう。
学修の目安は約1時間程度とします。

【事後学修】

子どもの自然科学に対する興味関心を高められるように、子どもの目線を大切にしたい保育環境を考え、実習現場などで試行してみましょう。自分自身の環境への問題意識も高められるようにしてください。学修の目安は約1時間程度とします。

評価方法 授業の取り組み（50％）課題・研究に取り組む姿勢（50％）

アクティブ ラーニング グループディスカッション ワークショップ 模擬実験体験 施設見学

フィードバック グループディスカッションや役割演技等を行い、研究の成果や実験の演示などについて相互評価を行います。自然・科学に対する考え方が深まるための環境作りについて、それぞれの意見を交換することで全体評価でフィードバックを行います。

実務経験 ○ 幼稚園の実務経験を活かし、保育者に求められる力量となる専門性を伝達し実践的な授業を行う。

教科書 必要に応じてプリントを配布

参考書 子ども向け科学辞典や図鑑・雑誌など
課題に応じて文献資料を紹介

備考 本ゼミナールでは、認定子ども園大成学園幼稚園の幼児に簡単な実験など実演したり、科学館など施設見学も正規の授業時間以外で行うこともあります。一人ひとりが自覚と責任をもって行動する力を養い保育者としてふさわしい態度で臨んでいきましょう。授業内に課したレポートについては、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	26121		科目名	ゼミナール	
担当教員	梶井 正紀				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)	

授業概要 1. 配慮を要する子の幼児・児童の支援方法を検討します。
 2. 教育現場で活用できる教育学（特別支援）に関するスキルを身につけることができます。
 3. それぞれの研究テーマに基づき、グループディスカッションを行うことで知識・理解を深めると同時にプレゼンテーションの方法も学びます。

到達目標 1. 障害児保育（特別支援教育）の意義を説明することができます。
 2. 合理的配慮を行う上でのポイントを理解し、適切な支援方法を具体的に述べることができます。

学位授与の方針 【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】
☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 特別支援教育の基礎と基本について
- 02 特別支援教育の考え方について
- 03 各研究テーマ選定（保育学・教育学分野）
- 04 調査研究の方法について（文献検索の方法）
- 05 調査研究の方法について（資料のまとめ方について）
- 06 調査研究の方法について（研究レジュメ・スライド作成）
- 07 研究デザイン作成について（進捗状況報告）
- 08 研究デザイン作成について（進捗状況報告）
- 09 研究デザイン作成について（進捗状況報告）
- 10 研究デザイン発表
- 11 研究デザイン発表
- 12 各自の研究デザインを振り返りを行って
- 13 研究デザインのまとめ（レポート作成）
- 14 特別支援学校見学（障害のある子の実態を捉えて）
- 15 実習における配慮を要する子どもについて（事例検討）
- 16 実習における配慮を要する子どもの支援方法について（事例検討）

- 17 施設実習における配慮を要する子どもの事例報告について
- 18 施設実習における配慮を要する子どもの事例報告と支援方法について
- 19 課題レポートのまとめとパワーポイント作成について
- 20 課題レポートのまとめとパワーポイント作成について
- 21 課題レポートのまとめとパワーポイント作成について
- 22 課題レポートのまとめとパワーポイントの完成について
- 23 課題レポートの最終確認（目的・方法、内容、考察等、記入方法の確認）
- 24 課題レポートの最終確認（文献活用の方法、文末脚注の付け方など）
- 25 課題レポートの最終確認（文献活用の方法、体裁の確認）
- 26 課題レポートの発表について（5名程度）
- 27 課題レポートの発表について（5名程度）
- 28 課題レポートの完成と振り返りについて
- 29 課題レポートの完成と振り返りについて
- 30 1年間の研究の成果と課題の整理について

授業時間 【事前学修】

外の学修 自分の研究テーマに関連する文献を調べ、ワークシートやノートにまとめる。特別支援教育（障害児保育）に関する情報（新聞・ニュース等）を考察してノートに整理する。（約1時間）

【事後学修】

自分の研究テーマの進捗状況について確認したり、分からない用語については図書館で調べる。（約1時間）

評価方法 卒業論文・発表(60%)、自主研究発表・ミニレポート(40%)

アクティブ
ラーニング グループワークショップ

フィード
バック 研究デザイン用紙を毎回提出し、評価とコメントをつけて返却します。

実務経験 ○ 特別支援学校、通常の学校の特別支援教育コーディネーターの実務経験を活かし特別支援教育に関する実践的な授業を行う。

教科書 なし

参考書 各自のテーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。

備考 授業内の発表や小テストについては、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	25121		科目名	総合表現	
担当教員	国府田/佐藤/馬立/梶井/加茂川/長谷川				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	保育科で学んだ表現技術の集大成として、演劇（言語）、演奏（音楽）、美術（造形）、ダンス（身体）等の表現手法を取り入れた舞台作品を創作することで、豊かな感性を育むとともに、保育者としての創造力や表現力を育みます。また、グループ創作を通じて表現の多様性を認め、他者の表現を受けとめ促し拡げていく姿勢を養います。この授業では、映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。				
到達目標	1年次、2年次に各科目で学んだ内容を基礎として、舞台で表現するための心構えや技術を修得し、協働体験を通して自主的・主体的に活動することができるようになります。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (1)舞台で表現するための心構え
- 02 台本・展開案作成(1)発表内容の検討(2)作品イメージの共有
- 03 台本・展開案作成(1)照明の検討(2)音響・効果音の検討
- 04 学内リハーサル(1)台本の読み合わせ(2)構成および展開の整理
- 05 練習と製作(1)台本・展開案の修正(2)舞台衣装の製作
- 06 練習と製作(1)立ち稽古(2)大道具・小道具の製作
- 07 学内リハーサル(1)作品完成度50%
- 08 立ち稽古および会場スタッフとの打ち合わせ(1)音響設備、照明設備の確認
- 09 学内リハーサル(1)作品完成度75%
- 10 立ち稽古(1)大道具、小道具を使用しての稽古
- 11 通し稽古(1)舞台衣装を着用しての稽古
- 12 学内リハーサル(1)作品完成度98%
- 13 通し稽古(1)1年生との打ち合わせ
- 14 会場リハーサルおよび学内リハーサル(1)大道具搬入(2)リハーサル

授業時間 【事前学修】

外の学修 普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく表現へと結びつきます。また、可能な限り、劇場や美術館等の文化施設に足を運んだり、映画や本に親しんだりすることで、表現手法への理解を深めておいてください。

【事後学修】

台本や展開案をよく読み込み、表現の質を高めるための個人練習やグループ練習を心がけてください。事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします。

評価方法 練習・リハーサル・本番への取り組み(60%)、作品の完成度(20%)、振り返りレポート(20%)等によって総合的に評価します。

レポートの評価基準 (1)字数や提出期限を守ることができている (20%) (2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%) (3)内容がテーマに即して適切である(30%) (4)考察が充分である(30%)

アクティブ ラーニング 映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション

フィードバック 個人の課題やグループごとに毎回提出する授業シートについて、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 水戸芸術館演劇部門学芸員（ACM劇場専属劇作家・演出家）として勤務していた教員や、音楽分野・ダンス分野で舞台活動を行う教員らの経験を活かし、舞台作品創作に関する実践的な授業を行います。

教科書 なし

参考書 テーマに応じて参考文献・参考資料・参考映像を紹介します。

備考 映像活用学習、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、グループのメンバーと切磋琢磨し共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	26211		科目名	教育実習	
担当教員	加茂川/木村/助川/安藤/佐藤/国府田/梶井/小口				
年度	2022	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☒ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 教育実習の目的と意義を理解し、幼稚園の役割や機能について学びます。幼稚園における幼児の生活と幼稚園教諭の役割や援助について理解していきます。

到達目標

- (1)幼稚園の機能や役割について具体的な実践を通して理解を深めます。
- (2)幼児の観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育への理解を深めます。
- (3)既習の知識、技術を活かして実習に取り組むことで、計画・実践・観察・記録・自己評価等について理解を深めると共に、幼稚園教諭の職務への自覚を深めます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

1年次 教育実習（認定こども園大成学園幼稚園・かさまこども園） 7日間
 2年次 教育実習（外部） 13日間

以下の内容に準じて実施する。

- ・幼稚園の環境(人的・物的)条件を知る。
- ・教育方針や保育状況などについて、実態を全体的に把握し理解する。
- ・保育の一日の流れや活動を理解する。
- ・教師の職務内容と役割を理解する。
- ・施設、設備、器具、用具の配置等から、教師や幼児はどのようにして工夫し活用しているかを知る。
- ・発達段階に応じた幼児への理解や、個々のケースへの理解を深める。
- ・指導のねらいを明確にした上で教材の準備を整え、部分実習を行うことを通して体験的に学ぶ。
- ・部分実習の指導計画の立案や、展開・評価について学ぶ。
- ・保育の展開過程における、教師と幼児の関わりを理解する。
- ・保育環境の重要性を理解し、その設定について学ぶ。

授業時間 【事前学修】

外の学修 部分実習について計画し、準備する。また部分実習の指導案を作成し、指導を受ける。指導された点について改善する。(約1時間)

【事後学修】

その日の実習を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。また自己の取り組みを振り返り、保育者として資質・力量の向上に努める。(約1時間)

評価方法	外部評価（70%）実習日誌（30%）
アクティブ ラーニング	幼稚園等で実習をする。
フィード バック	実習日誌や部分実習の反省について、個別のフィードバックを行います。
実務経験	
教科書	
参考書	実習ガイドブック 茨城女子短期大学 701ページで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画 幼稚園教育要領
備考	

ナンバリング	24221	24221	科目名	保育実習指導I-B			
担当教員	安藤 みゆき						
年度	2022		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4		授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)				

授業概要 施設実習の目的と意義を理解し、児童福祉施設の役割や機能について学びます。施設における子どもの生活と保育士の援助や役割について考察を深めてゆきます。実習日誌の重要性和書き方の留意点、さらに子どもの人権の配慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明します。さらに自己省察により、自己の実習の課題を明確にして、実習に臨めるようにします。

到達目標 (1) 実習の意義・目標を踏まえて実習日誌を書くことができます。(2) 保育所・幼稚園実習との違いや施設の実習内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができます。(3) 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について説明することができます。(4) 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に説明することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション、実習の目的と意義
- 02 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりの概要
- 03 施設の役割と機能
- 04 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 ロールプレイ及びディカッション
- 05 子どもの観察とその記録
- 06 個々の状態に応じた援助や関わり ロールプレイ及びディスカッション
- 07 施設における子どもの生活と環境の重要性
- 08 実習日誌の重要性和書き方の留意点
- 09 実習日誌におけるエピソード記録の方法
- 10 記録に基づく省察と自己評価、実習の課題の明確化
- 11 外部講師の講話と質疑応答
- 12 専門職としての保育士の役割と倫理

- 13 職員間の役割分担や連携
- 14 実習の事後指導（振り返りシートの記入）
- 15 実習の事後指導（事例検討、グループディスカッション）

授業時間 【事前学修】

外の学修 実習先施設の沿革・方針・特色について調べておいて下さい。参考文献として紹介した本など、施設に関する本を読んでまとめてください。（約1時間）

【事後学修】

事例を基に実習日誌や余暇活動の指導案の練習をしてください。家庭において家事などの環境整備について練習しておいてください。（約1時間）

評価方法 授業への取り組み（20％）レポート（80％）
 レポートの評価基準：1．字数や提出期限を守ることができている（10％）2．誤字脱字がなく、表現が適切である（10％）3．内容がテーマに即して適切である（30％）4．論理的にわかりやすく展開されている（20％）5．課題の考察が充分である（30％）

アクティブ ラーニング ロールプレイ、グループディスカッション

フィードバック 授業内レポートに関して、個別のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 児童福祉施設（児童心理治療施設）での勤務経験を活かし、実践的な授業を行います。

教科書 「実習ガイドブック」茨城女子短期大学

参考書 「明日の子どもたち」有川浩 幻冬舎 「夢をかなえる力」読売光と愛の事業団 「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」神永直美 萌文書林

備考 授業内レポートに関して、個別のフィードバックを行います。
 ロールプレイやディカッションは積極的に参加してください。
 なお、実習指導の授業は、無断欠席、遅刻は認められていないので、注意してください。

ナンバリング	24221		科目名	保育実習I（施設）	
担当教員	安藤/助川/佐藤/国府田/梶井/加茂川/木村/小口				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☒ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		
授業概要	児童福祉施設等において実習を行い、施設の役割や機能を具体的に理解します。施設における子どもの生活と保育士の援助や関り、さらに実習の記録に基づく省察や自己評価について実践的に学びます。				
到達目標	(1) 子どもの観察や関りを通して、子どもの生活と保育士の関わり、施設の役割と機能について理解を深めることができます。 (2) 子どもの心身の状態に応じた関りを配慮することができます。 (3) 保育士の業務内容、他の職種の職員との役割分担と連携について説明することができます。 (4) 人権に配慮した守秘義務の重要性を具体的に理解することができます。 (5) 記録に戻づいた省察や自己評価について考察を深めることができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。				
	【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				
授業計画・内容	児童福祉施設等において、以下の内容をもとに10日間の実習を行う。 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関り (2) 施設の役割と機能 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察、自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理				
授業時間	【事前学修】				
外の学修	実習の目標を具体的に検討してください。(約1時間)				
	【事後学修】				
	実習内容を省察し、実習日誌に記録してください。(約1時間)				
評価方法	外部評価70% 実習日誌30%				
アクティブラーニング	児童福祉施設等で実習をする。				
フィード	実習日誌や実習のリフレクションペーパーの個別のフィードバックを行います。				

実務経験

教科書 「実習ガイドブック」 茨城女子短期大学
「考え、実践する施設実習」 蒲田雅夫 保育出版社

参考書 フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画 神永直美 萌文書林

備考 それぞれの実習先の状況に即して、実習を行います。

実習施設への感謝を忘れずに真摯な態度で実習に臨むようにしてください。
実習日誌や実習のリフレクションペーパーの個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24222		科目名	保育実習指導Ⅱ	
担当教員	国府田 はるか				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☒ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 (1)6月に実施される保育実習Ⅱと9月の教育実習に向けて、これまでに各教科で修得してきた知識及び技能と1年次の実習を経て積み重ねられた経験を統合し、総合的に実践する応用力を養います。また、しっかりとした目的意識をもち実習に臨んだり、将来へのビジョンをもてるようにしたりします。(2)実習前の準備と実習後の振り返りを行います。その際、クリエイティブチームに分かれてディスカッションを行い、課題を共有します。(3)保育の最新事情等の情報を収集したり調べたりすることで、各自が実践的研究を進めます。

到達目標 (1)実習に関係する手順を理解し、スムーズに手続きができるようになります。(2)指導計画や実習日誌の書き方、考察の仕方を学習し、実際に書くことができるようになります。(3)実際に保育の場で子どもと関わるための、専門知識や技術が身に付きます。(4)社会人となるための基本的なマナーや礼儀を習得することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 実習ガイドブックに基づく実習の意義・目的・内容の理解
- 02 保育実習Ⅰの振り返りおよび整理
- 03 保育実習Ⅰの振り返りおよび今後の課題
- 04 保育実習Ⅱおよび幼稚園実習の書類準備
- 05 0,1歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 06 2,3歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 07 4,5歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 08 保育実習に向けての心構えおよび準備
- 09 保育実習Ⅱの振り返りおよび今後の課題
- 10 幼稚園実習における3歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 11 幼稚園実習における4歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 12 幼稚園実習における5歳児の指導案作成および実習に向けての実践的研究
- 13 幼稚園実習における総合(一日)実習について

14 映像で学ぶ幼稚園実習とグループディスカッション

15 外部講師による講話(幼稚園実習に向けて)

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1)全年齢クラスの指導案の下書きをする。(約1時間)

【事後学修】

(1)授業で学んだ指導案の内容を清書する。

(2)実習で使える年齢に応じた製作物・言語教材・玩具等を準備し、実習の場面を想定した手遊び・身体活動・ピアノ・歌・絵本の読み聞かせ等の練習をする。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み 40% 提出物 30% 指導計画と実習日誌 30%

アクティブ ペア・グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、クリエイティブ・セッション、映像活用学習、
ラーニング 事例研究(グループ活動等)

フィード 授業内での発表やグループ活動の評価や省察を、その都度フィードバックします。
バック

実務経験

教科書 フォトランゲージで学ぶ (萌文書林)
実習ガイドブック 茨城女子短期大学

参考書 保育所保育指針解説書
(厚生労働省 フレーベル館)ISBN978-4-577-81448-2

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
(内閣府/文部科学省/厚生労働省)ISBN978-4-577-81373-7

備考 ・保育実習指導Ⅲの授業と合同になることがある。
・幼稚園実習の振り返り及び全ての実習のまとめは、保育実践演習および教職実践演習で行う。
・保育実習指導Ⅱの評価は後期となる。

ナンバリング	24222		科目名	保育実習II	
担当教員	国府田/助川/佐藤/安藤/梶井/加茂川/木村/小口				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☒ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 (1)保育所の役割と機能の具体的展開を学びます。(2)観察に基づき、乳幼児の発達と保育を理解します。(3)指導計画案の作成、実践、記録、評価の一連の作業を通して保育の実践を学びます。(4)保育の要点に気づき、適切に記録するスキルを学びます。(5)保育士の役割を理解します。

到達目標 1.保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めます。2.子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めます。3.既習の教科目や保育実習Ⅰの経験をふまえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解できるようにします。4.保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深めます。5.保育士の業務内容や職業倫理を、具体的な実践に結び付けて理解します。6.実習における自己の課題を明確にします。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

以下の内容に準じて実施する。

- 1.保育所の役割や機能の具体的例
 - (1)養護と教育が一体となつて行われる保育
 - (2)保育所の社会的役割と責任
- 2.観察に基づく保育の理解
 - (1)子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2)保育士等の援助や関わり
 - (3)保育所の生活の流れや展開の把握
- 3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
 - (2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
 - (3)関係機関や地域社会との連携・協働
- 4.指導計画の作成・実践・省察・評価
 - (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の家庭の理解
 - (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価
- 5.保育士等の業務と職業倫理
 - (1)多様な保育の展開と保育士の業務

(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理

6.自己の課題の明確化

授業時間	【事前学修】
外の学修	本日の実習を振り返り、翌日の「実習のねらい」を具体的に考え、実習日誌に記載する。(約1時間)
	【事後学修】
	(1)その日の実習を振り返り考察して、実習日誌の記載をする。
	(2)翌日の実習内容の確認や準備をする。(約1時間)
評価方法	外部実習評価 70% 実習日誌 30%
アクティブ ラーニング	保育所及および乳幼児、実習担当教員との双方向性の学び
フィード バック	実習日誌と指導案等に関しては、学生からの質問に対して個別のフィードバックを行う。
実務経験	
教科書	実習ガイドブック 茨城女子短期大学
参考書	保育所保育指針解説書 厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ISBN978-4-577-81373-7 保育実習指導のミニマムスタンダード 全国保育士養成協議会(中央法規) ISBN978-4-8058-5686-4
備考	・保育実習の評価は後期となる。

ナンバリング	24223		科目名	保育実習指導III	
担当教員	安藤 みゆき				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☒ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解します。施設保育士に求められる資質・能力・技術について省察を深めます。子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わりについて事例をもとに、ロールプレイやディスカッションにより学んでいきます。事後指導においては、実習の振り返りを行い、実習体験を言語化していく作業を行います。

到達目標 (1) 実習の目標を明確にして、実習日誌を書くことができます。(2) 保育所・幼稚園実習との違いを明確に自覚し、しっかりと心構えをもち実習に臨むことができます。(3) 既習の教科目や保育実習の経験を通して、施設の機能や役割を理解することができます。(4) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション、児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能
- 02 施設実習の目的と意義
- 03 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 ロールプレイとディスカッション
- 04 実習の事務手続きと実習オリエンテーションの注意事項
- 05 実習先施設の沿革・方針・特色の理解
- 06 省察につながる実習日誌の書き方
- 07 実習日誌のエピソード記録の方法
- 08 外部講師による講話と質疑応答
- 09 子どもの権利を踏まえた守秘義務の重要性
- 10 実習の振り返り(実習日誌)
- 11 実習の振り返り（子どもとの関わり方）ロールプレイとディスカッション
- 12 実習の振り返り（自己の価値観、家族観の変化について）
- 13 実習の振り返り（自己成長と自己の課題について）

14 自立支援計画について

15 施設の社会的役割と今後の課題について

授業時間 【事前学修】

外の学修 実習先施設の沿革や・方針・特色についてレポートにまとめ、実習日誌にも要点を記入しておいてください。(約1時間)

【事後学修】

参考文献として紹介した本等、施設に関する本を読みレポートにまとめてください。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み(20%) レポート等(80%)
 レポートの評価基準：1. 字数や提出期限を守ることができている(10%) 2. 誤字脱字がなく、表現が適切である(10%) 3. 内容がテーマに即して適切である(30%) 4. 論理的にわかりやすく展開されている(20%) 5. 課題の考察が充分である(30%)

アクティブ
ラーニング ロールプレイ、グループディスカッション

フィード
バック レポートは、個別のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 児童福祉施設(児童心理治療施設)での勤務経験を活かし、実践的な授業を行います。

教科書 「実習ガイドブック」茨城女子短期大学

参考書 「明日の子どもたち」有川浩 幻冬舎 「夢をかなえる力」読売光と愛の事業団 明石書店

備考 保育実習指導2の授業に参加することがあります。レポートは、個別のフィードバックを行います。

ナンバリング	24223		科目名	保育実習III	
担当教員	安藤 みゆき				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☒ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		
授業概要	児童福祉施設等（保育所以外）において実習を行い、保育士として必要な知識・技術を実践を通して学びます。施設における支援の実験の経験を通して、子どもの気持ちに寄り添う態度や個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解について考察します。各施設における他の専門職との連携・協働の在り方や保育士の多様な業務・職業倫理についても学びます。				
到達目標	(1) 児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解できます。(2) 保育士の多様な業務内容や職業倫理について説明することができます。(3) 保育士以外の専門職との連携・協働を具体的に述べることができます。(4) 施設で暮らす子ども（利用者）の背景、心の状態やニーズへの配慮を心掛けることができます。(5) 保育士としての自己の課題を明確化することができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				
授業計画・内容	児童福祉施設等において以下の内容をもとに10日間の実習を行う。 1. 児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実践 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化				
授業時間	【事前学修】 外の学修 実習の目標を具体的に検討したり、必要とあれば余暇活動等の準備をしてください。（約1時間） 【事後学修】 実習内容を省察し、実習日誌に記録してください。（約1時間）				
評価方法	外部評価70% 実習日誌30%				
アクティブラーニング	10日間の施設実習を行う。				

フィードバック 実習日誌や振り返りシートのフィードバックを個別に行う。

実務経験 ○ 児童福祉施設（児童心理治療施設）の職員としての実務経験を活かし、実践的な実習指導を行う。

教科書 「実習ガイドブック」 茨城女子短期大学
「考え、実践する施設実習」 蒲田雅夫 保育出版社

参考書 フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画 神永直美 萌文書林

備考 実習先の状況に合わせて実習を行います。
実習施設への感謝を忘れずに真摯な態度で実習に臨んでください。

ナンバリング	25121		科目名	保育実践演習	
担当教員	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択必修 (ブ) ☐ 選択 (上秘メ) ☒ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (ブ) ☐ 必修 (こ) ☐ 必修 (ブ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 (1)保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術を習得します。(2)グループワークや研究発表、討論等により、保育実習を通じた、自らの体験や収集した情報に基づき、多様な視点から考察する力を習得します。(3)保育士の役割の理解を深め、目指す保育士像や今後の自己の課題を明確化します。(4)保育に関する現代的課題を把握します。

到達目標 (1)グループ討論やロールプレイング等を活用し、これまでの自らの学びを、保育実習等における体験と結び付けながら振り返ることができます。
 (2)実習の振り返りを通して、保育に関する基礎技能を高めることができたか、子どもの育ちにに応じた保育活動を展開することができるようになったかを把握します。
 (3)保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション・実習の振り返り
- 02 実習報告会に向けて(グループ分け発表・係決め)
- 03 実習報告会に向けて(グループ別の話し合い 等)
- 04 実習報告会に向けて(グループ活動、ポスター製作 等)
- 05 実習報告会に向けて(グループ活動、係活動)
- 06 実習報告会に向けて(80%リハーサル)
- 07 実習報告会に向けて(グループ活動 等)
- 08 実習報告会に向けて(100%リハーサル)
- 09 実習報告会の実施
- 10 実習報告会の振り返り、片付け
- 11 種々の表現方法の取得(音楽表現、身体表現)と評価
- 12 種々の表現方法の取得(造形表現)と評価

- 13 職員間の連携や関係機関との協働
- 14 社会人としての対人関係能力
- 15 保育士の意義とまとめ,振り返り

授業時間 【事前学修】

外の学修 保育実習1,2,3の実習日誌等を読み返して,重要ポイントおよび,発表内容をノートにまとめる。(約1時間)

【事後学修】

授業でやった内容を振り返りさらに深めるために,実習日誌を読み返し,点検する。(約1時間)

評価方法 授業への取り組み(100%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション 発表形式及び討論会

フィードバック 発表内容を用紙にまとめ,助言や評価を記入して返却します。

実務経験

教科書 なし

参考書 なし

備考 回により,教職実践演習と合わせた内容になることがある。

ナンバリング	25211		科目名	教職実践演習（幼稚園）	
担当教員	助川/安藤/佐藤/国府田/馬立/梶井/加茂川/木村/小口				
年度	2022	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☒ 必修（幼） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択必修（ブ） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（ブ） ☐ 必修（こ） ☐ 必修（ブ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（こ） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘）		
授業概要	幼稚園教諭になる上で必要な資質・能力についての自己課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図ります。内容については以下のとおりとします。 (1)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 (2)社会性や対人関係能力に関する事項 (3)幼児理解や学級経営等に関する事項 (4)保育内容の指導力に関する事項				
到達目標	保育者としての意欲、使命感、責任感にあふれ、愛情をもって幼児を理解し保育するとともに、他の保育者と協働しながらクラス経営や幼稚園運営に必要な事柄について理解することができます。				
学位授与の方針	【表現文化学科】 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【保育科】 ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 ☒ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				

授業計画・内容

- 01 履修履歴の確認と自己評価
- 02 教育実習の振り返りと自己課題の再認識
- 03 実習報告会に向けて（自己課題の確認）
- 04 実習報告会の計画（グループ活動・打ち合わせ）
- 05 実習報告会の準備
- 06 実習報告会（発表と共有）
- 07 実習報告会の振り返り
- 08 保育科発表会・練習（グループ活動）
- 09 保育科発表会・リハーサル（グループ活動）
- 10 社会から期待される教育者とは
- 11 保育科発表会
- 12 スクール・コンプライアンス
- 13 道徳教育について（いじめ問題を含む）

14 幼児教育と小学校教育の接続について

15 教職実践の基本的な資質能力についての確認及びまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、前週に発表される学習内容について調べておくようにしてください。
(約1時間)

【事後学修】

授業で学習した内容をできるだけ早めに確認しておいてください。わからないところは参考書で確認したり質問したりするなど積極的に進めてください。(約1時間)

評価方法 (1)授業への取り組み(50%) (2)報告書 (3)発表内容等(50%)
報告書の評価基準
1. 誤字脱字がなく、文章表現が適切でわかりやすいか (10%)
2. 求められている課題に内容が即しているか (20%)
3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか (40%)
4. 実習内容に関する考察が、グループ内で吟味されているか (30%)

アクティブ ラーニング グループワーク、プレゼンテーション、ライティング・ディスカッション

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験 ○ 担当者により幼稚園や児童福祉施設等での勤務経験を生かし、実習園等に即したアドバイスを行う。

教科書 なし (その都度必要に応じて配布します)

参考書 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館

備考 実習の報告にあたっては、1年生に対しプレゼンテーションをするような場面があります。

ナンバリング	26271		科目名	こども音楽療育実習		
担当教員	馬立 明美					
年度	2022	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☐ 表現文化学科 ☒ 保育科	
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☒ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘メ) ☒ 必修 (こ) ☐ 必修 (プ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保)	☐ 選択必修 (プ) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (プ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (こ) ☐ 選択 (司) ☐ 選択 (上秘)		

授業概要 障害児施設、障害児の特性や発達段階を理解した上で、障害児施設で行っている音楽療育、音楽療法を見学、観察します。また、音楽指導案、プログラム作成、教材選び、楽器準備、環境構成などを整え、付属幼稚園および校内ワークショップで音楽療育の実習を行います。

到達目標 (1)ワークショップを実施するまでの方法を学び、実習に臨むことができます。
 (2)アセスメント、プログラム作成、楽器や用具の準備を整え子どもに寄り添った音楽活動での対応ができるようになります。
 (3)こども音楽療育実習日誌の書き方を理解し記入できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【保育科】

- ☒ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス こども音楽療育実習の意義・目的・内容について
- 02 観察実習事前指導 (1) 実習日誌の書き方・アセスメントについて
- 03 観察実習事前指導 (2) 各障害児施設について 役割と機能、支援法
- 04 こども音楽療育見学・観察実習 (児童発達支援センター)
- 05 こども音楽療育見学・観察実習 (重症心身障害児通園施設)
- 06 こども音楽療育見学・観察実習 (ワークショップ観察)
- 07 こども音楽療育見学・観察実習 フィードバック 発表
- 08 こども音楽療育見学・観察実習 発表 実習日誌まとめと提出
- 09 付属幼稚園実習に向けて (1) グループワークによる音楽指導案、プログラム作成
- 10 付属幼稚園実習に向けて (2) グループワークによる指導案まとめ 使用楽器、教材作成準備
- 11 付属幼稚園実習に向けて (3) ディスカッションにより担当、進行内容の確認
- 12 付属幼稚園実習に向けて (4) 担当ごとの準備 (用具作成・個人練習・MCなど)
- 13 付属幼稚園実習準備 模擬セッション (1) 前半グループ
- 14 付属幼稚園実習準備 模擬セッション (2) 後半グループ
- 15 付属幼稚園実習 (1) 前半グループ

- 16 付属幼稚園実習（２） 後半グループ
- 17 幼稚園実習 振り返り 実習日誌記録 まとめ 提出
- 18 学内ワークショップに向けて（１）グループディスカッションによるプログラム指導案作成について
- 19 学内ワークショップに向けて（２）グループワークによる教材作成、楽譜・楽器準備
- 20 学内ワークショップに向けて（３）役割分担 準備物作成 確認 個人練習
- 21 学内ワークショップに向けて（４）グループ練習 通し
- 22 学内ワークショップ リハーサル（１） 前半グループ
- 23 学内ワークショップ リハーサル（２） 中間グループ
- 24 学内ワークショップ リハーサル（３） 後半グループ
- 25 学内ワークショップ実施（１）前半グループ
- 26 学内ワークショップ実施（２）中間グループ
- 27 学内ワークショップ実施（３）後半グループ
- 28 学内ワークショップ 振り返り 体験発表 前半
- 29 学内ワークショップ 振り返り 体験発表 後半
- 30 こども音楽療育実習まとめ 実習日誌提出

授業時間 【事前学修】

外の学修 作成した指導案・プログラムを把握し、伴奏の練習、歌唱の歌詞や手遊びをしっかりと覚えてください。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

実習を振り返り、行ったこと、声かけ、子どもの様子や反応、感じたことを丁寧に実習日誌に記録してまとめてください。学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み30%、プログラム作成と実習日誌30%、附属幼稚園実習およびワークショップへの参加意欲40%

アクティブ ラーニング グループディスカッション クリエイティブセッション ケースメソッド

フィードバック 提出プリント、ノートには、評価と教員のコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 児童心理治療施設、児童発達支援センター、重症心身障害児・者施設で音楽療法士としての実務経験を活かしこども音楽療育実習について実践的な授業を行う。

教科書 必要に応じて適宜配布

参考書 島田徳英(2013)「簡易伴奏による実用版こどものポップス大集合」デプロMP
下川英子（2011）『音楽療法・音あそび 統合保育・教育現場に応用する』音楽之友社

備考 授業内および実習内で、その都度フィードバックを行います。
*施設での観察実習（一人3回）付属幼稚園実習（一人1回）
学内ワークショップ（一人1回）